

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

(1) 新設組織の概要	2
①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）	2
②新設組織の特色	2
(2) 人材需要の社会的な動向等	2
①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	2
②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	4
③新設組織の主な学生募集地域	5
④既設組織の定員充足の状況	5
(3) 学生確保の見通し	6
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	6
ア 既設組織における取組とその目標	6
イ 新設組織における取組とその目標	9
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数	10
②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）	11
ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性	11
イ 競合校の入学志願動向等	14
ウ 学生納付金等の金額設定の理由	14
③先行事例分析	16
④学生確保に関するアンケート調査	16
⑤人材需要に関するアンケート調査等	21
(4) 新設組織の定員設定の理由	25

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 新設組織の概要

①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）

新設組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
高崎健康福祉大学 人間発達学部心理学科	40名	0名	160名	群馬県高崎市中大類町 37-1

②新設組織の特色

新設する人間発達学部心理学科は、「“生きる”を支える心理学教育」を教育理念として、心理支援に際して個々に配慮できる柔軟な思考力に加えて論理的、科学的思考力を備え、生涯発達過程で生じる様々な出来事に対して、心理学の知見を用いて、自分を生き、他人を生かす形で問題解決ができる人材の育成を目的としている。

心理学科の特色は、臨床心理学の5分野（医療、教育、福祉、司法、産業）とその基盤である基礎心理学（認知心理学、発達心理学、社会心理学）を体系的に学ぶことにより、いじめや不登校、子育て不安や介護疲れ、過労など心理社会的要因によって追い込まれている様々な世代の個々人や事業体等の組織、あるいは地域に対してメンタル・ヘルスクエアを介して貢献できる人材を養成することにある。

心理学科の卒業要件を満たした学生には「学士（心理学）」の学位を与える。

現在、本学は5学部8学科の体制で教育・研究を担っているが、いずれの専門学科においても新設組織の人材養成と教育・研究の目的とは異なっている。

したがって、本学には新設組織と近縁で、かつ関連する専門学科の設置の例はない。

(2) 人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

新設する人間発達学部心理学科は、上述の教育理念、目的から、心理学の専門的知識を持って自己や他者を理解し、その理解を踏まえて様々な人々の生涯発達を心理面から支えることができる知識と技能を備えた人材の育成を行う。

今日、心の健康の問題は、国民の生活に関わる重要な課題となっている。

「労働安全衛生調査」によると、職場のストレスで精神疾患を発症する人は増加傾向にあり、一般企業では、全体の13.5%の事業所でメンタル不調により連続1か月以上休業または退職した労働者がいたとされ、その割合は事業所規模が大きくなるほど高まり、500人～999人規模では87.2%の事業所で、1000人以上では91.2%の事業所でメンタル不調を訴

える労働者の存在が報告されている。これに対し、各企業は事業所内外での相談体制を整備するほかに、全体の 49.6%の事業所で精神的に不調を訴える労働者に対する必要な配慮を実施している。労働者側の状況をみると、現在の仕事や職業生活に関することで、強い不安、悩み、ストレスを感じている労働者の割合は 82.7%に達している。そのため、厚生労働省では、零細企業も含めてすべての企業で労働者に対して「ストレスチェック」を義務付けるため「労働安全衛生法」の改正に向けて議論を進めている。(【資料 1】)

一方、群馬県においても、健康分野における県の最上位計画である「群馬県健康増進計画(元気県ぐんま 21(第 3 次))」において「こころの健康の維持・向上につながる社会環境整備」に取り組んでいる。令和 6 年 3 月には「誰も自殺に追い込まれることのない群馬県」を理念として、「第 4 次群馬県自殺総合対策行動計画－自殺対策アクションプラン」を制定した。その基本施策の一つに「自殺対策を支える人材の育成」を掲げ、「行政職員、窓口担当者、一般県民など、幅広い分野の関係者に対してゲートキーパー養成研修を行うほか、研修の講師となれる人材の育成を推進」し、「教職員や各種相談窓口の担当者に対して、自殺予防に関する正しい知識の普及や相談技術の向上を図る」としている。(【資料 2】)

また、文部科学省の問題行動・不登校調査によると、令和 5(2023)年度の小中学校の不登校の児童生徒は全国で 34 万 6 千人余、群馬県の公立小中学校においても 4,700 人となっており、過去最多を記録している。また、「いじめ」は全国の小・中・高校及び特別支援学校で 73 万 2 千人余が認知されており、生命や心身の被害、長期欠席などを含む重大事案は 1,300 件を超えて過去最大と報告している。一方、群馬県内の公立校のいじめ認知件数は 4,330 件報告されている。(【資料 3】)

群馬県教育委員会が定める「ぐんまの教育 2024」では、重点政策に「変化の激しい社会に対応できる資質・能力の育成」「心と体の健康に対する理解と向上」等を掲げ、公認心理師等のスクールカウンセラー(SC)が「生徒、保護者へのカウンセリング及び教職員への助言・援助を行う」ほか、生徒に「援助希求能力や危機的な状況におけるストレスの対処法を身に付けさせるため、SCが講師となり、ストレスマネジメント講演会や互いに支え合える人間関係構築に係る体験活動を実施する」としている。(【資料 4】)

さらに、日本基礎心理学会第 36 回大会(2017 年 12 月)では「企業が心理学に期待するもの、心理学が企業に貢献できること」と題してシンポジウムが開催された。そこでは製造業等民間企業等に勤務する研究者から、(統計・アンケート調査に関する知識を含む)心理学分野の専門性が商品開発や販売、サービス向上に役立っていることが報告され、心理学を学んだ人材が活躍する場が広がっていることが示されるとともに、学会も学術分野以外で心理学の知見を活用する場を広げようとしていることを示している。(【資料 5】)

このように、行政、教育、産業界の各分野で、人間理解を学ぶ心理学の知識を有して支援にあたる人材は強く求められている。

【資料 1】 令和 5 年「労働安全衛生調査(実態調査)」の概況

【資料 2】 第 4 次群馬県自殺総合対策行動計画－自殺対策アクションプラン

【資料3】上毛新聞 2024年11月1日付1面

「不登校最多4700人 01年度以降公立小中学校 求められる支援充実」

【資料4】ぐんまの教育2024ー基本方針と主要事業ー（主要事業一覧No.76）

【資料5】日本基礎心理学会第36回大会シンポジウム1報告

②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

新設組織（心理学科）の開設年度は令和8年度に予定していることから、10年目となる令和18年の受験生は令和元年生まれが対象となり、その年の出生数は86万5千人ほどである。

令和5年度学校基本調査によると大学進学率は前年比1.1%増の57.7%であり、大学進学率は毎年増加傾向を示している。

開設10年後の大学進学率を予測することはかなり困難であるが、本学が設置されている群馬県と隣接4県の大学進学率（現役）を見ると、群馬県では53.3%、栃木県53.3%、新潟県49.6%、長野県48.4%、埼玉県61.3%である。いずれの県においても平成26（2014）年～令和5（2023）年の10年間で大学進学率は7ポイントから10ポイント近くまで上昇している。（【資料6】）

また、令和5（2023）年における群馬県の大学進学者の地元残留率は、群馬県32.6%である。北関東の平均24.4%、甲信越の平均28.0%に比べて高いものの群馬県の大学入学者の3分の2は県外に流出していることになる。県外流出地として最も多いのは東京都であるが、この理由として東京には大規模大学が多いこと、志望者が多い人文・社会科学系分野に高い収容力を有していること、そして群馬県からの距離が近いことが考えられる。

しかし、群馬県の地元残留率は、平成26（2014）年比で3.3ポイント上昇している。同様に栃木県では3.6ポイント、長野県で3.4ポイント、東京と若干の距離がある新潟県にいたっては6.2ポイント上昇しており、経済状況によって地元残留率がさらに上昇することが予想される。（【資料7】）

中央教育審議会大学分科会「高等教育の在り方に関する特別部会」で示されたように、大学進学率は収容力（入学定員数）と正の相関関係があり、収容力が高い都道府県ほど進学率及び地元の大学への進学率が高い傾向にある（【資料8】）ことを考えると、県内に高校生またそれ以下の年齢層の関心の高い分野を学べる大学が増えれば、進学率ならびに地元残留率が向上することは十分考えられる。

また、社会人の大学入学は我が国においては米国など海外と比べてかなりの程度低い傾向にある。しかし、近年リスキリングによるキャリアアップを求める傾向が強くなり、10年後の社会人の大学への進学も増加することが考えられる。特に、資格系の専門学科への関心は高まると予想され、本学が設置を予定している心理学科も社会人の大学再入学の対象となることが強く予測される。加えて、退職後、知識意欲も高い活動的な高齢者が増加するなかで、University of the 3rd Age (U3A) のような形で自らの身心に関する学びを志向する高

齢者も見込まれ、心理学科への社会人入学も期待される。

【資料 6】群馬県及び隣接 4 県の大学進学者数・進学率（現役）の推移

【資料 7】地元残留率の推移（群馬・栃木・新潟・長野）

【資料 8】収容率と自県内大学進学率の相関関係

③新設組織の主な学生募集地域

人間発達学部心理学科の主な学生募集地域は、他学科同様本学が所在する群馬県と隣接 4 県（埼玉県、栃木県、長野県、新潟県）を想定している。本学の令和 6 年度入学者の出身高校所在地は、以下の表 1 に示したとおりである。例年、これら 5 県で入学者の約 9 割を占めている。この傾向は、今後とも変化はないと思われる。（【別紙 1】）

【別紙 1】新設組織が置かれる都道府県への入学状況

表 1 令和 6 年度 出身高校の所在地県別の入学者数の構成比

	都道府県名	人 数	構成比
1	群馬県	408 人	62.4%
2	長野県	65 人	9.9%
3	埼玉県	60 人	9.2%
4	栃木県	41 人	6.3%
5	新潟県	30 人	4.6%
	他	50 人	7.8%
	全 体	654 人	100.0%

④既設組織の定員充足の状況

本学の既設 8 学科の定員充足の状況について、別紙 2 - 1 から別紙 2 - 8 で示す。既設 8 学科の直近 5 年間の入学定員充足率の平均値は、医療情報学科 1.11、社会福祉学科 1.25、健康栄養学科 1.07、薬学科 1.06、看護学科 1.06、理学療法学科 1.21、子ども教育学科 1.13、生物生産学科 0.97 であり、生物生産学科以外は全て定員を充足している。

しかし、生物生産学科は令和 5 年度入学者選抜より入学定員の見直しを行い、入学定員を 100 名から 75 名に変更した。その結果、生物生産学科の令和 5 年度の入学定員充足率は 1.17、令和 6 年度の入学定員充足率も 1.17 となり、入学定員の充足について改善がなされている。

また、前述したように社会福祉学科の直近 5 年間の入学定員充足率の平均は 1.25 とやや高めであった。そのため、生物生産学科の削減した入学定員 25 名のうち 15 名を社会福祉学科に、10 名を医療情報学科に振り向けて、入学者率の改善を図った。その結果、社会福祉学科の令和 5 年度の入学定員充足率は 1.07、令和 6 年度の入学定員充足率も 1.07 と改善がなされた。

このように、本学設置のすべての8学科は、定員を充足している。本学既設学科は、後述((3)②ア4.)するように国家試験の合格率並びに就職率の高さ等により、その教育が在
学生や保護者に加え地域社会からも高く評価されており、Well-being 社会を支える健康福
祉系の総合大学として、今後も継続して定員を充足すると見込んでいる。

【別紙2】既設学科等の入学定員の充足状況(直近5年間)

【別紙2-1】高崎健康福祉大学健康福祉学部医療情報学科

【別紙2-2】高崎健康福祉大学健康福祉学部社会福祉学科

【別紙2-3】高崎健康福祉大学健康福祉学部健康栄養学科

【別紙2-4】高崎健康福祉大学薬学部薬学科

【別紙2-5】高崎健康福祉大学保健医療学部看護学科

【別紙2-6】高崎健康福祉大学保健医療学部理学療法学科

【別紙2-7】高崎健康福祉大学人間発達学部子ども教育学科

【別紙2-8】高崎健康福祉大学農学部生物生産学科

(3) 学生確保の見通し

首都圏、特に群馬県出身者が多く進学する東京都・埼玉県に所在し入学定員が100名を
超す心理学系学科の令和4(2022)年度～令和6(2024)年度の志願倍率(志願者数/合格
者数)をみると、明治学院大学心理学部心理学科が5.30倍(令和5年度)、4.31倍(令和6
年度)、東洋大学社会学部社会心理学科が4.35倍(令和4年度)、3.66倍(令和5年度)、
4.29倍(令和6年度)、立教大学現代心理学部心理学科が5.44倍(令和4年度)、3.89倍
(令和5年度)、3.66倍(令和6年度)、文教大学人間科学部心理学科が1.61倍(令和4年
度)、1.84倍(令和5年度)、1.67倍(令和6年度)、同臨床心理学科が1.81倍(令和4年
度)、2.05倍(令和5年度)、2.11倍(令和6年度)となっている。【資料9】これは、18
歳人口減少期にあっても心理学を学ぼうとする高校生が多く、収容数が不足していること
を示している。

【資料9】東京都・埼玉県の大学 心理系学部・学科(入学定員100名超)の入学志願状況

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

先に述べたように、本学には計画している新設学科(心理学科)と近接している学科の設
置はなく、また、学校法人高崎健康福祉大学は専門学校を設置していない。そのため、本学
においては、これまでの本学の学生募集の実態を説明することにする。

本学は学生募集の専門部署として入試広報センターを設置しており、10名体制で以下の
(A)～(F)の活動に取り組んでいる。なお、本学独自の活動として、一般入試の地方会場
地域を中心として本学主催の入試説明会も実施している。学部学科単独の広報活動は行っ

ていないが、学科の教員が高校側からの要請により模擬授業に出かけるケースは少ない。

- (A) 高等学校訪問
- (B) オープンキャンパス
- (C) 進学相談会
- (D) 本学主催の入試説明会
- (E) 大学案内・大学情報誌等
- (F) ホームページ、公式 SNS 等

【別紙 3】 既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績

(A) 高等学校訪問

入試広報センターでは、本学への入学実績の多い高校や学校推薦型選抜指定校など、特に例年入学者の 9 割を占める地元群馬県をはじめ、埼玉県、栃木県、長野県、新潟県の高校を中心に担当者を派遣して、教育理念、研究内容、求める学生像、育成する人物像、学科カリキュラムの特徴、国際交流、各入学者選抜区分の内容などを説明し、併せて生徒の進路状況などの情報収集にもあたっている。また茨城県、福島県、山形県、宮城県などの高校についても必要に応じて訪問し、本学の学部・学科の紹介や訪問先高校の生徒の進路傾向などの情報を収集している。訪問する高校数は毎年平均 450～500 校にのぼり、令和 6 年度は、入試広報センター職員 5 名がエリアを担当して実施した。

(B) オープンキャンパス

大学の施設や立地環境及び学生や教員の雰囲気をはじめとする教育環境を伝えることを目的としてオープンキャンパスを実施している。主な対象は本学の受験を検討している者であり、各学科等の特色や社会で活躍している卒業生の紹介、模擬授業、在学生・職員との個別相談、施設見学を実施している。新型コロナウイルス感染症のため令和 3・4 年度は Web 方式、令和 5 年度は、Web 方式と人数を制限したキャンパス来場型の併用で開催せざるを得なかったが、令和 6 年度になって開催方法を新型コロナウイルス感染症パンデミック前の状態に戻して実施したところ、オープンキャンパス 5 回（3 月～8 月）の来場者は延べ 2,478 名だった。来場者の多い 7、8 月は在学生による学科紹介のほか、全学科の模擬授業を実施している。オープンキャンパス参加者における受験者数の割合は例年 50%前後、入学者の割合は例年 35%前後である。

(C) 進学相談会・(D) 本学主催の入試説明会

群馬・栃木・埼玉・長野・新潟を中心に、業者並びに高校主催の進学相談会に約 50 件参加している。参加会場は相談希望者が多く見込まれる場所を選定しており、近年では首都圏（埼玉県南部）での進学相談会への参加に力を入れ、令和 6 年度では、参加件数全体の 1 割程度にまで増加させた。これとは別に、本学主催の入試説明会を令和 6 年度には隣接 4 県と仙台を選定して 10 回実施している。参加者は、高校生や保護者など毎回 10

組前後であり、進学相談や入試の説明を行っている。

業者主催の進学相談会に参加する際は、該当地域の本学接触者（資料請求者やオープンキャンパス参加者など）に対し、はがきの送付や E メールを配信して周知するほか、進学相談会に先んじて高校訪問を実施し、高校教員経由で来場を促すなど努めている。過去 3 年間における進学相談会の参加者数は 1 年あたり 700 人強で推移しており、受験と入学に至る人数はそれぞれ 30～35%前後、20%強である。進学を検討している高校生に対して受験行動に結びつくプラスの効果をもたらしている。

(E) 大学案内・大学情報誌等

毎年、高崎健康福祉大学の概要・学部学科・専門職連携教育・地域貢献・産官学連携・国際交流・学生生活・就職支援等を掲載した『大学案内』を作成している。また、本学の広報誌「健大通信」を学校推薦型選抜指定校など関係の深い高校を中心に定期的に送っており、本学の最新情報を積極的に広報している。

ホームページからは『大学案内』の請求を無料で受け付けている。令和 4 年度学生募集では、新型コロナウイルス感染症によるイベント中止の影響もあり、請求件数が 14,274 件と例年より多かった。令和 5 年度の資料請求件数は 13,566 件であったが、令和 6 年度は、進学情報誌や進学情報サイトからの資料請求の増加もあり、令和 6 年 10 月 21 日現在既に昨年度を上回る 13,687 件の請求がある。資料請求数は全体として増えており、志願意欲の高い高校生に適切に届いていると判断できる。

(F) ホームページ、公式 SNS 等

1. ホームページ

高校生が知りたい情報をストレスなく得られるようデザイン、システム構築に取り組んでおり、本学の教育内容、学習環境をより分かりやすく伝えている。これにより、進学媒体を経た受験生と推測されるアクセスが増加し、令和 6 年度のアクセス数は、前年度同期間に比べ 52%増加している。併せて、スマートフォンへの対応も強化している。

2. 公式 SNS

SNS の展開による広報にも積極的に取り組んでいる。進学相談会や受験生による学校見学の際にプッシュ通知機能の登録を促し、適切な時期に適切な情報をダイレクトに届けている。そこでは、受験生に必要な基本情報に加えて、在学生が自分の言葉で語る施設紹介動画で大学の雰囲気や伝えたり、一般公開より早く予備校講師による過去問解説にアクセスできるようにしたりしている。また WEB DM 内でも登録を促している。Instagram はホームページと連動させており、学生の協力を得て投稿数の増加とともに受験生世代に魅力ある内容の発信を目指している。

X (旧 Twitter) はイベント情報や教員のメディア掲載などタイムリーな投稿を心がけている。配信数はトピック数によるため明確な配信数の目標は設定しないが、学生の協力を得ながらトピックの掘起しとタイムリーな発信に努めている。

イ 新設組織における取組とその目標

(3) ①アの項で記したように、本学は心理学科の教育・研究に近接した学科は設置しておらず、また、学校法人高崎健康福祉大学は専門学校等の各種学校の運営は行っていない。そのため、本項では新設学科に対する学生募集の対応について、本学がこれまで実施してきた様々な学生募集を中心に記述する。

本学は設置する 8 学科全てにおいて入学定員を充足してきたことから、これまで行ってきた取組を基本的に踏襲する。しかし、心理学科の新設を機に、教育目標、資格、人材養成、卒業後の進路などより丁寧な説明を心掛ける。さらに、高校生の進学に対する情報収集手段の変化に対応して、従来から制作している『大学案内』に加えて、ホームページや公式 SNS の拡大、公式 YouTube チャンネルでのショート動画配信に力を入れていく。公式 YouTube チャンネルショート動画では新学科のコンセプトムービーのほか、新設学科を含む各学科の教員による研究紹介動画などを配信していく予定である。

(A) 高等学校訪問

高校訪問にあたっては、心理学科を新たに設置することについて十分に周知を図るため、令和 7 年度は例年を上回る 600 校を目標とする。また、新設学科の学生募集にあたり、既設学科の学生募集要項に則り、学校推薦型選抜に対応して新設学科への指定枠を設定する。高校訪問は、過年度に訪問実績のある高校や新設学科の指定校のほか、近年増加傾向にある通信制の高校を新たに追加する。訪問時には、当該高校の卒業生の入学後の就学態度の状況などをまとめ、入学後も責任をもって学生指導にあたっていることを伝えるとともに、高等学校からの要望を聞くなど、双方にとって意味のある訪問をする。これまでは入試広報センターの広報担当スタッフが中心に訪問してきたが、令和 7 年度は入試担当スタッフから 1 名増員し、6 月～12 月に集中的に高校訪問を実施する。

(B) オープンキャンパス

株式会社フロムページ「テレメール全国一斉進学調査」によると、本学の「入学者の役にたった大学広報媒体」は「来場型オープンキャンパス」の回答が 84.5% と最も高い結果となった。新設学科においてもこの取組を継続するとともに内容の充実を図る。令和 8 年度学生募集のためのオープンキャンパスは令和 7 年 3 月、7 月（2 日間）、8 月（2 日間）を予定し、オープンキャンパス以外にも高校生を対象としたワークショップ型のイベント（8 日間）、大学の授業を体験するイベント（1 日間）などの実施を企画している。延べ年間参加者数は前年度の 1.5 倍を目標とする。

(C) 進学相談会

過去 3 年間における 1 年あたりの各種相談会の参加者数は 700 人前後で推移している。心理学科は令和 8 年 4 月開設予定であることから、令和 7 年度以降は本学への入学実績があり、かつ心理学科を設置している大学が少ない北陸、東北地域などで実施される進学説明会にも積極的に参加して、新設学科の教育内容や学科体制、取得可能な資格などの周

知徹底を図る。

(D) 本学主催の入試説明会

新設学科の設置に伴い、一般選抜地方会場設置地区で例年実施している本学独自の進学相談並びに入試説明会の回数を増加する計画である。入試対策方法など、最新の情報を正確に伝えるとともに、大学のブランドイメージを強化し、受験生の志望意欲を高める。

(E) 大学案内・大学情報誌等

株式会社マイナビの「進学アクセスオンライン」による本学の学生募集の統計値によると、令和5年度の資料請求受験者数は13,566人であり、その内、実際の受験者数と入学者数はそれぞれ1,081人、597人である。資料請求した受験者の8.0%が受験し、入学者の割合は4.4%になる。令和6年度は、令和6年10月21日現在既に昨年度を上回る13,687件の請求がある。

令和7(2025)年度は、新設学科の設置に伴う受験者の資料請求数の増加が望まれるが、目標として15,000部以上の『大学案内』等の資料請求を目指す。

(F) ホームページ、公式 SNS 等

ホームページはブランディングサイトとして効果をあげている。新設学科に関しては、特設サイトを立ち上げ、教員・学生の取組、新設学科に関連するイベント情報に加え教員のインタビューを行うなどして積極的な発信を続ける。SNSではInstagramを中心に、広報の学生スタッフの協力を得て、若いアイデアを活用することで学生目線のコンテンツの発信に努め、効果測定を行いつつより効果的な配信を行う。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

はじめに、日本私立学校振興・共済事業団(令和元年度～令和6年度・令和6年度は速報値)の報告による、全国の心理学系学科の入学定員と志望者数の動向について記載する。

全国の私立大学の心理学部入学定員は2,713人から3,884人に、志願者数は28,076人から31,032人にそれぞれ増加している。入学定員充足率もこの期間内で令和3年度の103.05、令和6年度は106.05と堅調であり、心理学を学ぼうとする学生は増加傾向にあることを示している。また、心理学部(総合心理学部を含む)の入学定員充足率の推移を他の人文・社会科学系の学部のそれと比較して常に高位を保っていることから、前述の取組は十分成果に反映されると見込んでいる。(【資料10】)

新設心理学科の入学定員は40名と少数である。本学が実施している入学者選抜区分の入学定員を総合型2名、学校推薦型16名、健大スカラシップ選抜2名、一般入学試験(A・B日程)16名、共通試験利用型選抜(前期・中期・後期)4名に設定して、以下に各入試区分の充足率を考察する。

まず、令和3～6年度の間人文学部子ども教育学科の総合型選抜試験応募者は3～8人といずれも募集定員2名を上回っており、社会福祉学科や医療情報学科も同様であることから新設学科心理学科の総合型選抜の募集定員2名を充足する可能性は高い。

次に、学校推薦型選抜で指定枠（1 高校 1 人）を利用して入学した学生数（系列高校含む）は人間発達学部子ども教育学科では 53 人から 61 人に達しており、また社会福祉学科で 50～60 人、医療情報学科では 40～50 人となっている。令和 3～6 年度にかけて前述した 3 学科の指定校数は若干の変動はあるが子ども教育学科で 278 校、社会福祉学科で 335 校、医療情報学科で 394 校であることから各学科の指定校数に対する入学者数の割合は、おおよそ子ども教育学科 15.8%、社会福祉学科 13.0%、医療情報学科 11.0%になる。

これを参照に、新設心理学科の指定校数に対する入学者数を高校生の心理学に対する関心の高さを考慮して 15%と設定すると、系列高校を含めて 100～130 校の高校に指定枠を設定することで予定の 16 人を確保できることが見込まれる。

次に、一般入試と共通試験利用型選抜であるが、直近の令和 6 年度では人間発達学部子ども教育学科の志願者数は、それぞれ 80 人（A・B 合計、募集人員 28 人）、92 人（前・中・後期、合計募集人員 7 人）であり、総入学者数は入学定員に 3 人足りなかった。これは、当該学科の令和 3～5 年度の入学者数が入学定員の 1.15 を超えていることから、その是正を行った結果である。同様に、令和 6 年度の医療情報学科、及び社会福祉学科の入学者充足率は、それぞれ 0.98、1.07 であった。医療情報学科は若干定員に達しなかったが、一般入試の倍率は 1.6 倍、共通試験利用型では 1.2 倍であったことから、合格判定に際して若干の見込み違いがあったと捉えている。

この項の初めに記載したように、心理学科への志望者は、少子化が進行する現在においても増加の傾向にあり、併せて高校生の資格志向の高さなどを考慮すると、本学新設の心理学科への一般入試及び共通試験利用型選抜の合格倍率は子ども教育学科より十分高くなることが予測できるので、合計で少なくとも 20～23 人の入学が見込まれる。また、「健大スカラシップ入試」からの入学者も見込まれることから、全ての入試選抜区分を合わせると新設心理学科への入学者数は確実に 42～45 人ほど確保できると思われる。

なお、教育情報誌を発行する JS コーポレーションは、2022～2023 年にかけて全国の高校生に対して興味のある大学を尋ね、都道府県別に集計している。群馬県では、約 8,400 人の高校生に興味のある大学を尋ねて、国公立大と私大別に集計している。その結果は、群馬県の地方新聞上毛新聞の特集版“JOMOtto”1 面に令和 5（2023）年 6 月 20 日付で掲載されている（【資料 11】）。それによると、本学は私大では県内の他の私大や東京の有名私大を抑えてトップの位置にあり、県内高校生の本学への関心が極めて高いことが伺える。この結果は、新設予定の心理学科の学生確保について高い可能性を示唆する。

【資料 10】心理学部志願者・入学者動向

【資料 11】上毛新聞 2023 年 6 月 20 日付 JOMOtto 別刷第 1 面（紙面）

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

（2）③表 1 に示すように本学学生の出身地は、本学が所在する群馬県を中心に、栃木県、

埼玉県、新潟県、長野県で全体の9割を占める（令和6年度入学者では、全入学者654名中、群馬県出身者が408名で62.4%、他の4県出身者が196名で30.0%）。新設組織においてもこの傾向は大きく変わらないと見られることから、心理学の学部学科を設置している群馬県、栃木県、埼玉県、新潟県の私立大学9校を競合校として選定した。長野県は、群馬県に次いで出身学生が多い県であるが、同県の私立大学で対象となる清泉女学院大学人間学部心理コミュニケーション学科には心理コースと英語コミュニケーションコースが併設され、学生数・志願状況が学科単位で公表されており、心理系単独での比較ができないので除外した。同様の理由で、本学の所在地高崎市の隣接地、前橋市に所在する群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科社会福祉専攻心理福祉コースも新設組織と強い類似性を有するが、対象から除外した。（【資料12】）

【資料12】競合校の入学志願状況

1. 競合校との比較分析－教育内容と方法

新設する人間発達学部心理学科では、卒業要件に含まれる科目のうち、所定の科目を履修することで、公認心理師国家試験受験資格、認定心理士、認定心理士（心理調査）、社会調査士及び准学校心理士の各資格の取得を可能とする。

対象校として選定した9大学はいずれも公認心理師国家試験受験資格（学部要件）を満たしているが、認定心理士資格を取得できない大学や公認心理士国家試験受験資格を得ることができる大学院（修士課程）を設置していない大学が含まれる。なお、大学によっては心理系資格の他に中学校教諭一種免許等教員資格や社会福祉士、精神保健福祉士等福祉系資格の取得が可能である。

本学設置予定の心理学科は、認定心理士、認定心理士（調査）、社会調査士、児童指導員任用資格など心理学を基礎から応用まで体系的に学習することで可能となる複数の心理系資格の取得を可能としている。また大学院で国家資格公認心理師の受験資格を取得するために学部での単位修得が必要な科目群も設定しており、これを活かすべく、新学科設置認可後は心理系の研究科を設置する予定である。また、現在全学科に共通して開講されている共通教養科目を心理学科にも開講する予定である。全学共通科目群は基礎教養科目群、人間理解科目群、リテラシー科目群に区分され、社会生活で求められる語学や情報処理系科目、本学の特徴である医療、福祉、健康を司る人材に求められる知識や倫理、「人間関係論」、「共生の倫理」など人々との関わりなどを学ぶ科目で構成される。さらに幅広い医療福祉分野が存在するメリットを活かし、現在の医療や福祉分野に欠かせない「チーム医療アプローチ論」が設定されているのも本学の教育上の特色であり、心理職が心理ストレスを抱える者を支援するうえで重要な多職種との連携の基礎を修得できる。

2. 競合校との比較分析－入試

新設組織の入学者選抜は、既設組織と同じ選抜方法で同時期に実施する。総合型選抜

を10月、学校推薦型選抜を11月、健大スカラシップ選抜を12月に実施、一般選抜を2月に二つの日程で、大学共通テスト利用選抜を2月から3月にかけての前期・中期・後期と3日程で実施する。入学手続時期は、各選抜方法の合格発表日から一週間から10日間程度に設定している。なお各選抜試験の日程は、競合校とほぼ同時期になるが、具体的な月日が一致しているわけではない。

3. 競合校との比較分析－学生納付金、奨学制度などの修学支援の内容

ウ「学生納付金等の金額設定の理由」で後述するように、新設学科の学生納付金は、競合校と比較してやや高く設定されているが、国の高等教育の修学支援新制度の対象機関として認定を受けているほか、特待生制度や大学奨学金制度等の経済支援制度を設けて、経済的理由で学業を断念することのないよう本学独自の修学支援を行っている。

4. 競合校との比較分析－就職支援の内容

本学の就職支援の特徴は、徹底した個人指導にある。キャリアサポートセンターを中心に、学生の志望に合わせた支援に力を入れている。進路選択の相談、書類作成のアドバイス、模擬面接等の一般的な支援に加え、センター内に設けたスタジオで就職講座や企業説明の動画を撮影し、配信を行っている。これにより、学生はいつでも何度でもオンデマンドで視聴することができ、学生のペースに合わせた支援につながっている。こうした支援体制の充実もあり、完成3年度目となる農学部生物生産学科の実就職率は第1期生（令和5年3月卒業）97.8%、第2期生（令和6年3月卒業）100%で、大学通信社が集計する学部別系統就職率の「農学」分野において2年連続で全国1位となった。就職先も、地方公務員のほか「食と農」に関わる生産・加工・流通・研究技術開発など、多彩な業種にわたっており、就職支援の充実が寄与していると捉えている。

また、本学には医療系専門職を養成する学科が多く、国家試験の合格率も高い。そのため、地域の企業・団体等から実績のある大学と認識されており、強い連携が構築されている。こうした多様な進路への支援体制に加え、企業・団体等の連携は、心理学科卒業生においても大変有利に働くと考えられる。

5. 競合校との比較分析－取得できる資格

設置予定の心理学科で取得できる資格は、認定心理士資格、認定心理士（心理調査）、社会調査士及び准学校心理士があり、併せて児童心理司、児童指導員及び社会福祉主事の任用資格を得ることができる。特に地方にある大学で社会調査士、准学校心理士資格を取得できることは特徴的であり、学生の可能性を広げることになる。

また大学院で国家資格公認心理師の受験資格を得ることができるよう、学部での履修が求められる科目群を設置しており、新学科設置認可後に心理系の大学院研究科の設置を予定している。

このように、本学既設学科が持つ特徴を引き継ぎながら心理学科が新たな取組を重ねる

ことにより、競合各校と比較して優位な位置を占めることができると考えられる。

イ 競合校の入学志願動向等

競合校として選定した9大学の入学定員、志願状況、志願倍率、定員充足率等について令和4(2022)～令和6(2024)年の3年間の推移を【資料12】に示した。

全てのデータが公表されていないが、公表されている大学の志願倍率の3年間の推移は減少の傾向にある。それでも1大学を除き8大学の心理系学科の志願倍率は2倍以上になっている。令和6年度に学科新設された新潟医療福祉大学心理福祉学部心理健康学科は、入学定員80名に対する志願倍率は2.28であり、入学定員も満たしている。さらに、白鷗大学教育学部発達科学科心理学専攻(入学定員40名)は、令和6年度の志願倍率が7.20と極めて高い。

また、直近の令和6年度では3大学が入学定員を満たしていないが、大学全体の入学定員充足率がそれぞれ0.6台から0.8台に留まる中で心理学科の充足率は3大学とも0.9台にある。したがって大学全体の充足率が1.0を超えている本学としては、入学定員充足率が0.9台にある競合校があることは大きな懸念材料にはならない。

本学は、開学以来少数教育に徹してきたが、設置を予定している心理学科の入学定員においても40名と少数で設定していること、(3)①ウに示したように群馬県の高校生の本学への関心は県内の他の私大や東京の有名私大を抑えて1位にランクされていることから、競合校と比較して優位性は高いと思われる。

【資料12】競合校の入学志願状況(再掲)

ウ 学生納付金等の金額設定の理由

新設する人間発達学部心理学科の学納金は、入学金250,000円、授業料900,000円、施設設備費250,000円、実験実習費50,000円とし、初年度納付金は1,450,000円、2年次以降の納付金は1,200,000円とする。(初年度納付金には諸経費を含まない。以下同じ。)これは、心理学科が少人数制であること、新たに専用の校舎を建築すること、学内で実験を行うこと、などを勘案して設定した。心理学科の学生納付金は本学の中では4番目に低い金額となり、適切な金額だと判断した。本学の既設学科との比較は表2のとおりである。

表2 本学既設学科の学生納付金との比較(薬学科は6年間の納付金)

学科	入学定員	入学金	授業料	施設設備資金	実験実習料	初年度納付金	4年間の納付金
心理学科	40	250,000	900,000	250,000	50,000	1,450,000	5,050,000
医療情報学科	80	250,000	850,000	250,000	40,000	1,390,000	4,870,000
社会福祉学科	75	250,000	850,000	250,000	40,000	1,390,000	4,870,000
健康栄養学科	80	250,000	900,000	340,000	140,000	1,630,000	5,950,000

薬学科	90	250,000	1,100,000	500,000	260,000	2,110,000	11,810,000
看護学科	100	250,000	1,000,000	380,000	140,000	1,770,000	6,510,000
理学療法学科	40	250,000	900,000	360,000	120,000	1,630,000	5,950,000
子ども教育学科	80	250,000	850,000	250,000	40,000	1,390,000	4,870,000
生物生産学科	75	250,000	900,000	360,000	120,000	1,630,000	5,950,000

競合する他大学との比較は表3のとおりである。本学心理学科の学生納付金は競合が見込まれる大学と比較するとやや高くなっているが、入学定員40名という少人数教育を考慮すると著しく高いものではない。同じ群馬県内の東京福祉大学心理学部心理学科は実験実習費を別途徴収することになっており、同大学心理学科との比較はできない状況にある。医療系の総合大学という特色を生かした多職種連携教育など、設定した学生納付金に見合った教育やサービスを提供できると考えている。

表3 競合校の学生納付金との比較

大学	学部 学科	入学 定員	入学金	授業料	施設整備資金 教育拡充費	実験実習料	初年度 納付金	4年間の 納付金
東京福祉 大学	心理学部 心理学科	230	200,000	805,000	320,000	別途徴収	1,325,000	4,700,000 +実験実習料
聖学院 大学	心理福祉学部 心理福祉学科	120	280,000	830,000	275,000	別途徴収	1,385,000	4,700,000 +実験実習料
埼玉学園 大学	人間学部 心理学科	100	270,000	720,000	360,000	30,000	1,380,000	4,710,000
文京学院 大学※1	人間学部 心理学科	100	270,000	882,000	230,000	50,000	1,444,000	4,966,000
十文字学 園女子 大学※2	教育人文学部 心理学科	110 *R6 ~	250,000	750,000 2年次以降 1,240,000	330,000	別途徴収	1,330,000	5,050,000 +実験実習料
駿河台 大学	心理学部 心理学科	140	200,000	735,000	330,000	-	1,265,000	4,415,000
白鷺大学	教育学部 発達科 学科心理学専攻	40	280,000	780,000	270,000	別途徴収	1,330,000	4,480,000 +実験実習料
新潟青陵 大学	福祉心理子ども 学部 臨床心理 学科	50	300,000	740,000	310,000	30,000	1,380,000	4,620,000
新潟医療 福祉大学	心理・福祉学部 心理健康学科	80	250,000	830,000	280,000	40,000	1,400,000	4,850,000

※1 公認心理師受験資格の課程履修者は、別途履修費・実習費として 99,600 円が加算される

※2 資格取得の受講料等は別途徴収

③先行事例分析

本申請には先行事例はなく、該当しない。

④学生確保に関するアンケート調査

人間発達学部心理学科の学生確保の見通しを確認するため、(A) 外部業者による高校留め置き調査と (B) 本学オープンキャンパス参加者を対象とした調査を実施した。これらの調査結果を総合的に考察することで、学生確保に関する見通しについて説明する。

(A) 外部業者による高校留め置き調査

人間発達学部心理学科の新設にあたり、高校生のニーズを把握し学生確保の見通しを確認するために、第三者機関に依頼しアンケート調査を実施した。調査概要は以下の通りである。(【資料 13】)

調査対象	群馬県および一般選抜で地方会場を設置しているエリア（栃木県、群馬県、埼玉県、新潟県、長野県）で受験実績、入学実績のある高等学校 56 校
調査方法	Web 回答方式 本調査への協力が得られた高校に心理学科の概要が記載されたパンフレットと調査協力の依頼文書を本学担当者が持参し、高校生に配布と調査協力を呼び掛けていただいた。
調査期間	令和 7 年 5 月 14 日～令和 7 年 6 月 7 日
有効回答数	4,791 件 有効回答数の定義：学年を「高校 3 年生」と回答している票数
調査実施機関	株式会社 進研アド

アンケート調査で「Q6 卒業後の進路：大学」かつ「Q7 大学等の設置者：私立」と回答した高校 3 年生に対して、Q8 で大学で学びたい分野について調査した。回答は複数選択可としたが、心理学は 454 名の高校 3 年生が学びたい分野として選んでおり、複数回答とはいえ心理学を学びたいと考えている高校生の割合の高さを認識できた。

Q8 高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。以下の項目から、興味のある学問分野をすべて選択してください。(複数選択可) ※現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。

（「Q6 卒業後の進路：大学」・「Q7 大学等の設置者：私立」に該当する 2,745 名を対象）

分野	人数	割合
経済・経営学	765	27.9%
その他	598	21.8%
心理学	454	16.5%
教育学（小学校・幼稚園教員養成など）	441	16.1%
文学	348	12.7%
看護学	287	10.5%
法学	250	9.1%
理学療法学	216	7.9%
社会福祉学	195	7.1%
情報学	157	5.7%
工学	155	5.6%
理学	124	4.5%
家政学（食品栄養学を含む）	120	4.4%
農学	97	3.5%
わからない	93	3.4%
薬学	89	3.2%

次に Q9 で本学人間発達学部心理学科の特色 1～3 についてどの程度魅力を感じるか調査したところ、特色 1～3 の魅力度（「とても魅力を感じる」または「ある程度魅力を感じる」と肯定的な回答をした割合）は 93.0%～95.8%と高い数値となった。よって、本学心理学科の特色は高校生にとって魅力的なものであると判断できる。

Q9 高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」（仮称、設置認可申請中）には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。次より一つずつ選択してください。

（「Q6 卒業後の進路：大学」・「Q7 大学等の設置者：私立」・「Q6 興味のある学問分野：心理学」に該当する 454 名を対象）

番号	特色	魅力度*
1	実践的な学びを通じて、心理学の観点に基づいた対人支援を展開できる心理専門職（公認心理師等の心理カウンセラー）を育成する。	93.8%
2	メンタルヘルスの基礎知識を活かしたコミュニケーションスキルと科学的思考を身につけて、認定心理士、社会調査士などの資格取得ができる。	93.0%

3	学ぶ人の興味に合わせた心理学に関する専門講義を受講することができ、心理学の基礎知識や、統計学、心理学研究法などの論理的・科学的な実践スキルが身につく。	95.8%
---	---	-------

* 「とても魅力を感じる」または「ある程度魅力を感じる」と回答した割合

最後に本学心理学科の入学意向者数について検証した。調査の結果、「Q6 卒業後の進路（設置する学校の別：大学）」、「Q7 進学を希望する場合の大学等の設置者（設置構想中の大学等設置者：私立）」、「Q8 興味のある学問分野（設置構想中の学部等に該当する学問分野：心理学）」、「Q10 新設予定の本学心理学科の受験希望の有無（第一志望として受験する）」、「Q11 新設組織に合格した場合の入学希望の有無（入学する）」の条件に全て合致する回答は 59 件であった。これは人間発達学部心理学科の入学定員 40 名の約 1.5 倍にあたり、定員を超える入学見込み者が確認できた。また、志望順位問わず受験意向があり入学する意向があったとした回答は 220 件（合算）になる。このことより、実際に入学を見込める人数は 59 名よりもさらに多いと考えられる。

表 4 受験意向および入学意向（Q6、Q7、Q8 の条件に該当する 454 件を対象とする）

		Q11 入学意向		
		入学する	他の志望校が不合格の場合に入学する	
Q10 受験意向	第一志望として 受験する	59 件	0 件	入学意向 220 件
	第二志望として 受験する	8 件	40 件	
	第三志望として 受験する	4 件	109 件	

以上より (A) 外部業者による高校留め置き調査において入学定員 40 名を超える入学見込み者を確認することができ、学生を確保する見通しがあると判断した。

【資料 13】 「受験意向・入学意向者数調査」調査結果

(B) 本学オープンキャンパス参加者を対象とした調査

信頼性の高い情報の獲得のため、2024 年 7 月/8 月に実施したオープンキャンパス (B-1) と、2025 年 3 月に実施したオープンキャンパス (B-2) とでそれぞれ調査を実施した。それらの結果を用いて本学人間発達学部心理学科の学生確保の見通しについて説明する。（【資料 14】）

(B-1) 2024年7月/8月に実施したオープンキャンパスでの調査結果

2024年7月/8月の第1回～第4回のオープンキャンパスの際に心理学科の広報資料（【資料15】）を配布し、以下の様式によるアンケート調査を実施した（【資料16】）。

調査対象	2024年7月27日（土）、7月28日（日）、8月17日（土）、8月18日（日）に開催した高崎健康福祉大学オープンキャンパスに参加した高校生
調査方法	Web回答方式 心理学科の概要が記載されたパンフレットと調査協力の依頼文書を配布し調査協力を呼び掛けた。
総回答数	749件
調査実施機関	高崎健康福祉大学

回答結果は下記表5の通りである。総回答数は749件で、そのうち高校2年生と回答したのは260件であり、そのうち「質問1 卒業後の進路（設置する学校の別：大学）」、「質問2 進学を希望する場合の大学等の設置者（設置構想中の大学等設置者：私立）」、「質問3 興味のある学問分野（設置構想中の学部等に該当する学問分野：心理学）」、「質問4 新設組織の受験希望の有無（第一志望として受験する）」、「質問5 新設組織に合格した場合の入学希望の有無（入学する）」の条件に全て合致する回答は23件であった。なおアンケート調査の際に、口頭にて以前に本アンケートに回答したことがある場合には回答しないよう要請した。したがって第1回～第4回のオープンキャンパスで実施したアンケート調査には重複はないと判断している。

表5 2024年7月/8月の全学オープンキャンパスでの調査

現在の学年	回答者数 (a)	希望する進学先として私立大学を選び、かつ興味のある学問分野を「心理学」と回答した者のうち、本学心理学科を第一志望とし、かつ入学を希望する者(b)	第一志望率 (b/a)
高校1年生	192名	9名	4.6%
高校2年生	260名	23名	8.8%
高校3年生	285名	12名	4.2%
その他	12名	2名	—
合計	749名	46名	—

2024年7月と8月に4回開催したオープンキャンパスの時点では、2026年度に心理学科設置の計画について、外部へのアナウンスがされていなかった。したがって、昨年7、8月に開催されたオープンキャンパスへの参加者は本学が設置している各学科に関心のある高

校生等が中心になっている。そのため、当時のアンケート調査は心理学系の学科への進学意識が比較的低い高校生等を対象としていると考えられることから、第1志望で心理学分野に入学を希望する高校生等の割合は限定的だったと考えられる。

【資料 14】 夏オープンキャンパス 高校生対象「進路に関するアンケート」調査結果

【資料 15】 調査回答者に提示した心理学科に関する資料（概要を示したパンフレット）

【資料 16】 夏オープンキャンパス 高校生対象「進路に関するアンケート」調査票

(B-2) 2025年3月に実施したオープンキャンパスでの調査結果

2025年3月8日（土）開催のオープンキャンパスにおける心理学科説明会で、以下の様式によるアンケート調査を実施した（【資料 17】）。心理学科説明会には既卒者を含めて39名の参加者があった。全員にアンケートを依頼したが、前年7月/8月に実施したオープンキャンパスで実施されたアンケート調査との重複を避けるため、「これまでに高崎健康福祉大学心理学科へのアンケートに答えたことがありますか？」との問いに「ない」と回答した33名についての調査結果である。

調査対象	2025年3月8日（土）に開催した高崎健康福祉大学オープンキャンパスで、心理学科の説明会に参加した高校生と既卒者
調査方法	会場で調査票を配布し回収 回答前の心理学科の説明において、学科の名称、設置の理念、養成する人材像、アドミッション・ポリシー、設置場所、学生納付金等について説明を行っている。
有効回答数	33件 有効回答数の定義：「これまでに高崎健康福祉大学心理学科へのアンケートに答えたことがありますか？」との問いに「ない」と回答した件数
調査実施機関	高崎健康福祉大学

回答結果は下記表6の通りである。第一志望で本学心理学科に入学の意欲を示した回答は高校2年生（当時）が19件、高校1年生（当時）が6件、既卒者が2件となり、心理学科開設時の対象となる高校2年生と既卒者の合計は21件となる。

表6 2025年3月オープンキャンパス心理学科説明会会場での入学希望調査

	第一志望	第二志望	不明	総計
高校2年生	19	2	2	23
高校1年生	6	0	2	8
既卒	2	0	0	2
総計	27	2	4	33

なお、今回の調査では開設予定の本学心理学科入学希望者は、第一志望で 81.8%と極めて高くなっている。しかしアンケート対象者は、心理学科説明会への参加者であり、心理学分野への強い興味・関心を持つ高校生等であることを考慮すると十分に妥当な結果と考えている。

【資料 17】 「春のオープンキャンパス心理学科（新設予定）アンケート」調査票

調査 B-1 での入学意向者 23 人と調査 B-2 での入学意向者 21 人を合わせると、本学主催のオープンキャンパスにおいて人間発達学部心理学科に第一志望で入学したいと回答した現 3 年生と既卒生は 44 人となり、心理学科の入学定員の 40 人を超える人数となる。また、アンケート対象が極めて限られた数であることを考慮すると、開設予定の本学「人間発達学部心理学科」への入学者は十分に入学定員を上回ることが推察される。

ここまでの調査結果をまとめると、以下のとおりになる。(A) 外部業者による県内外 53 校の高校留め置き調査であるが、第一に心理学分野に高いニーズがあること、第二に本学心理学科の特色が高校生にとって魅力的であることが確認できた。入学意向についても第一志望で受験し入学を希望する者が 59 名、第二・第三志望の受験者を含めると 220 名の入学意向が判明し、定員を超える人数が確認された。またこの調査は高校 3 年生の 5 月に実施されており、回答者の多くは進路の方向性をすでに定めていると推察される。そうした時期においても、59 名が第一志望で受験し入学を希望しているという結果は、本学心理学科に対する進学希望が明確かつ具体的であることを示しており、学生確保の可能性は非常に高いと判断した。(B) 本学オープンキャンパス参加者を対象とした調査は本学に関心がある層を対象として信頼性の高い情報の獲得を目指した調査であり、こちらも心理学科への第一志望の入学意向者が合計 44 名と定員を超える人数が確認できた。

それぞれの結果を総合すると、本学人間発達学部心理学科は高校生のニーズに合致しており、学生を確保する見通しは十分にあると判断できる。

⑤人材需要に関するアンケート調査等

i. 人材需要に関するアンケート調査

人間発達学部心理学科に対する人材需要の見通しを確認するため、第三者機関である株式会社進研アドに依頼し、卒業生の就職先として想定される事業所に対するアンケート調査を実施した。調査対象としたのは高崎健康福祉大学の既存学部において過去 3 年間で就職実績のある事業所である。(調査期間：令和 6 年 11 月～12 月)

◆回収状況

発送数 430 件

回収数	179 件
有効回収数	179 件
有効回収率	41.6%

回答のあった事業所の本部所在地は「群馬県」が 57.0%であった。本学既存学部の入学者のうち群馬県出身者が約 60%であることを考えると、今回の調査における事業所の選定は妥当である。

大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいと考えているか尋ねたところ(Q7)、「社会福祉学」が 64 件と最も多く、次いで「学問分野にはこだわらない」が 58 件、「看護学」と「薬学」が同数の 49 件、「経済・経営学」が 38 件、「理学療法学」が 37 件、「心理学」が 35 件、「情報学」が 34 件、「家政学（食品栄養学を含む）」が 32 件と続いている。社会福祉学、看護学、薬学、理学療法学、情報学、家政学はいずれも本学既存学科の学問領域であり、これらが上位となるのは調査対象が就職実績のある事業所であることから妥当な結果といえる。こうした調査対象でありながら「心理学」との回答が上位であったことは、心理学を学んだ人物の需要が一般にも大きいことを示している。様々な業種の事業体を対象とした場合、「心理学」への回答数はさらに増加すると想定される。

次に、本学心理学科の特色について魅力を感じるか尋ねたところ(Q8)、結果は表 7 のとおりとなった。

表 7 本学心理学科の特色にどの程度魅力を感じるか（回答数=179 件）

	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない	無回答
特色 A.	41 件	115 件	20 件	2 件	1 件
特色 B.	46 件	105 件	25 件	2 件	1 件
特色 C.	40 件	115 件	23 件	0 件	1 件

特色 A. 実践的な学びを通じて、心理学の観点に基づいた対人支援を展開できる心理専門職（公認心理師等の心理カウンセラー）を育成する。

特色 B. メンタルヘルスの基礎知識を活かしたコミュニケーションスキルと科学的思考を身につけて、認定心理士、社会調査士などの資格取得ができる。

特色 C. 学ぶ人の興味に合わせた心理学に関する専門講義を受講することができ、心理学の基礎知識や、統計学、心理学研究法などの論理的・科学的な実践スキルが身につく。

「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」を本学心理学科の特色に「魅力がある」との回答とすると、3つの特色すべてにおいて8割を超える事業所が「魅力がある」としており、本学心理学科が養成しようとする人材は企業にとって大変魅力的であることが示さ

れた。加えて、本学心理学科の社会における必要性については (Q9)、「必要だと思う」が 172 件 (96.1%) であった。これにより、本学心理学科はこれからの社会のニーズに適合していることが併せて示された。

本学心理学科の卒業生の採用意向について尋ねたところ(Q10)、「採用したいと思う」は 138 件であり、十分高い結果であった。さらに、採用意向のある事業所に対して採用想定人数を尋ねた(Q11)。採用想定人数と回答件数をそれぞれ掛け合わせ、その合計の人数を表 8 に示す。

表 8 本学心理学科卒業生の採用想定人数

採用想定人数	回答件数	採用想定人数×回答件数
1名	87	1名×87=87名
2名	18	2名×18=36名
3名	14	3名×14=42名
4名	0	4名×0=0名
5名～9名	5	5名×5=25名
10名以上	6	10名×6=60名
無回答	8	—
合計	138	250名

本学心理学科卒業生の採用意向（求人が見込まれる件数）は 250 名となるが、現実性を考慮して採用想定人数を 1 名ないし 2 名とした事業体が 1 名ずつ採用したとしても採用予定数は 105 名となり、入学定員 40 名のおおよそ 3 倍に達する。

以上の調査結果より、本学心理学科は、多くの企業・施設・団体が「これからの社会にとって必要」な学科と捉えていることが明らかであり、本学心理学科卒業生の就職先は十分確保できるものと考える。

【資料 18】人材需要の見通し調査報告書（「高崎健康福祉大学『人間発達学部心理学科（仮称）』設置に関するニーズ調査結果報告書」）

ii. 地元自治体及び団体からの要請

人間発達学部心理学科新設構想にあたり、地元自治体（群馬県・高崎市）及び産業界と本学とで求める人材像に関する意見交換を行ったところ、心理学科が目指す人材養成が地域・産業界に貢献すると見込まれる旨の意見書が寄せられた。

ア 群馬県知事からの意見書

群馬県知事からは、県は「こころの健康の維持・向上につながる社会環境整備」や総合的な自殺対策に取り組んでおり、そのため「個人、家庭、職場、地域社会における理解、相談支援体制の構築及びそれらを支える人材の育成が重要」として、「心の

健康を支える高度な人材」の育成・研究のために本学人間発達学部心理学科によるこれまで以上の地域社会への貢献を期待するとの意見をいただいている。(【資料 19】)

イ 高崎市長からの意見書

高崎市長からは、「いつまでも安心して暮らせるまち高崎」を掲げる同市にとって、本学による「社会的な要因で追い込まれている様々な世代の人々を心理的にサポートする人材」の養成が大きく寄与すると期待し、「積極的な人材の活用を図りたい」との期待が寄せられた。(【資料 20】)

ウ 高崎商工会議所会頭からの意見書

高崎商工会議所会頭からは、本学心理学科による「心理学の観点から自己理解や他者理解ができ、かつ臨床心理学の知見による対人支援や、心理支援のための効果的なコミュニケーション・スキルを修得した職業人」の養成が働きやすい環境づくりを目指す各事業所において求められる人材となるとの期待が寄せられた。(【資料 21】)

【資料 19】 群馬県知事からの意見書

【資料 20】 高崎市長からの意見書

【資料 21】 高崎商工会議所会頭からの意見書

iii. 心理学科卒業生の進路確保に向けて

先に述べたように、事業所に対する採用意向調査並びに地元自治体や経済団体からの意見書により、本学心理学科卒業生の就職先は十分確保できると考える。特に、今回のアンケート調査の対象が本学既存学科卒業生の就職先であり、管理栄養士や薬剤師、看護師といった特定の資格を持つ卒業生を採用する事業所が多く、必ずしも心理の専門職として人々の「心の健康」に直接かかわる就職先を選んでいるわけではない。それにもかかわらず、心理学を専門とする学生の採用に意欲的であることは、「心の健康」に関する課題が職場の中で意識されつつある状況の表れともいえる。メンタルヘルスを理由として休職・退職する労働者が年々増加するなかで、労働安全衛生面から事業所において心理学が必要とされているのであり、心理の知識や素養を有する学生に対する社会の期待を表している。

このように十分な就職先が確保できる状況と考えられるが、心理学に興味を持ち入学してきた学生が、専門職になるための学びを深め、資格を取得し、より高度な実践の場で専門職として活躍できるよう支援することが、本学科としての務めである。そのために、教員による心理専門職が活躍する実務の場の紹介や、キャリアサポートセンター職員による就職先開拓が重要であることはいうまでもない。既存学科における就職支援のノウハウは、新設学科の就職先開拓にあたって十分生かされると確信しており、人材需要に関するアンケートで示された以上の就職先を学生に提示できると見込んでいる。

蛇足的になるが、公認心理師としての活躍をめざす学生への大学院進学指導についても、学年進行に伴って充実を図るのは当然のことである。

(4) 新設組織の定員設定の理由

「(1) 新設組織の概要」で記したとおり、新設組織人間発達学部心理学科の入学定員は40名である。その理由は、

第一に、本学は、開学以来、学生に寄り添った少人数教育に徹していること

第二に、心理学の専門家として高い知識と技能を有して価値観の多様化と社会の複雑性が増すこれからの社会に貢献できる人材を養成するために、多様な学生同士が交流しやすく、かつ学科コミュニティーの中で、教職員も含めて濃密な関係を築きやすい規模であること

第三に、学生の卒業後の進路環境を考慮するため

第四に、少子化が進行する時代にあっても、将来にわたり入学定員を安定的に充足するため

の4点である。

学生の確保の見通し等を記載した書類

【資料目次】

【資料 1】	令和 5 年「労働安全衛生調査（実態調査）の概況	2
【資料 2】	第 4 次群馬県自殺総合対策行動計画－自殺対策アクションプラン	5
【資料 3】	「不登校最多 4700 人」（上毛新聞 2024 年 11 月 1 日付 1 面）	6
【資料 4】	ぐんまの教育 2024－基本方針と主要事業－	7
【資料 5】	日本基礎心理学会第 36 回大会シンポジウム 1 報告	8
【資料 6】	群馬県及び隣接 4 県の大学進学者数・進学率（現役）の推移	9
【資料 7】	地元残留率の推移（群馬・栃木・新潟・長野）	10
【資料 8】	収容率と自県内大学進学率の相関関係	12
【資料 9】	東京都・埼玉県の大学 心理系学部・学科（入学定員 100 名超）の 入学志願状況	13
【資料 10】	心理学部志願者・入学者動向	14
【資料 11】	「群馬の高校生が興味を持つ大学」 （上毛新聞 2023 年 6 月 24 日付 JOMOtto 別刷 1 面）	15
【資料 12】	競合校の入学志願状況	16
【資料 13】	「受験意向・入学意向者数調査」調査結果	17
【資料 14】	夏オープンキャンパス 高校生対象「進路に関するアンケート」調査結果	38
【資料 15】	夏オープンキャンパス 調査回答者に提示した心理学科に関する資料	42
【資料 16】	夏オープンキャンパス 高校生対象「進路に関するアンケート」調査票	44
【資料 17】	「春のオープンキャンパス心理学科（新設予定）アンケート」調査票	49
【資料 18】	人材需要の見通し調査報告書	50
【資料 19】	群馬県知事からの意見書	65
【資料 20】	高崎市長からの意見書	66
【資料 21】	高崎商工会議所会頭からの意見書	67
【別紙 1】	新設組織が置かれる都道府県への入学状況	68
【別紙 2-1】	入学定員の充足状況（直近 5 年間）医療情報学科	69
【別紙 2-2】	入学定員の充足状況（直近 5 年間）社会福祉学科	70
【別紙 2-3】	入学定員の充足状況（直近 5 年間）健康栄養学科	71
【別紙 2-4】	入学定員の充足状況（直近 5 年間）薬学科	72
【別紙 2-5】	入学定員の充足状況（直近 5 年間）看護学科	73
【別紙 2-6】	入学定員の充足状況（直近 5 年間）理学療法学科	74
【別紙 2-7】	入学定員の充足状況（直近 5 年間）子ども教育学科	75
【別紙 2-8】	入学定員の充足状況（直近 5 年間）生物生産学科	76
【別紙 3】	既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績	77

【資料1】 令和5年「労働安全衛生調査（実態調査）」の概況

出典：厚生労働省 令和5年「労働安全衛生調査（実態調査）」結果の概要

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/r05-46-50b.html> の図表データ(ファイル名：r05-46-50_zuhyo.xlsx) から抜粋・下線付加

《事業所調査》

1 メンタルヘルス対策に関する事項

第1表 過去1年間にメンタルヘルス不調により連続1か月以上休業した労働者又は退職者がいた事業所割合及び労働者割合
令和5年 (単位：%)

区 分	事業所計	(複数回答)			常用労働者計	メンタルヘルス不調による連続1か月以上の休業者数 ¹⁾³⁾	メンタルヘルス不調による退職者数 ¹⁾²⁾
		メンタルヘルス不調による連続1か月以上休業した労働者又は退職者がいた ¹⁾	連続1か月以上休業した労働者がいた	退職した労働者 ²⁾ がいた			
合 計	100.0	<u>13.5</u>	10.4	6.4	100.0	0.6	0.2
(事業所規模)							
1,000人以上	100.0	<u>91.2</u>	88.1	67.4	100.0	1.0	0.2
500～999人	100.0	<u>87.2</u>	85.4	58.0	100.0	1.2	0.3
300～499人	100.0	74.1	70.0	42.1	100.0	0.7	0.2
100～299人	100.0	55.3	52.4	26.0	100.0	0.6	0.2
50～99人	100.0	28.2	22.9	14.6	100.0	0.5	0.2
30～49人	100.0	16.0	10.5	8.2	100.0	0.4	0.3
10～29人	100.0	7.5	5.1	3.1	100.0	0.3	0.2
令和4年 合計	100.0	13.3	10.6	5.9	100.0	0.6	0.2

注：1) メンタルヘルス不調による連続1か月以上休業した労働者及び退職した労働者には、受け入れている派遣労働者は含まれない。

2) 同じ労働者が連続1か月以上休業した後に退職した場合は、「退職した労働者」のみに計上している。

3) 同じ労働者が複数回連続1か月以上休業した場合は、1人として計上している。

第2表 メンタルヘルス対策の取組内容（複数回答）別事業所割合
令和5年

（単位：％）

区 分	メンタルヘルス対策に取り組んでいる事業所計 ¹⁾	メンタルヘルス対策の取組内容（複数回答）							職場環境等の評価及び改善（ストレスチェック結果の保健スタッフ（部、課など）ごとの分析を含む）	健康診断後の保健指導等を通じた産業保健スタッフによるメンタルヘルス対策の実施
		メンタルヘルス対策について、衛生委員会又は安全衛生委員会での調査審議	メンタルヘルス対策に関する問題点を解決するための計画の策定と実施	メンタルヘルス対策の実務を行う担当者を選任	教育研修・情報提供			メンタルヘルス対策に関する事業所内の産業保健スタッフへの教育研修・情報提供		
					メンタルヘルス対策に関する労働者への教育研修・情報提供	メンタルヘルス対策に関する管理監督者への教育研修・情報提供	メンタルヘルス対策に関する事業所内の産業保健スタッフへの教育研修・情報提供			
合 計 （事業所規模）	[63.8]	100.0	27.9	19.0	33.1	33.3	30.5	13.9	48.7	31.5
1,000人以上	[100.0]	100.0	32.4	64.2	64.9	78.6	72.8	55.6	96.6	73.0
500～999人	[99.5]	100.0	73.1	55.4	64.9	66.9	66.5	48.2	95.4	61.5
300～499人	[99.8]	100.0	75.5	51.8	60.5	65.6	70.1	37.5	93.3	54.3
100～299人	[96.6]	100.0	63.5	35.7	54.1	50.7	47.7	27.8	78.8	43.7
50～99人	[87.4]	100.0	46.5	27.2	44.9	38.4	33.3	15.2	67.6	33.9
30～49人	[71.8]	100.0	26.3	17.1	35.5	32.4	28.5	12.9	43.1	31.2
10～29人	[56.6]	100.0	19.4	15.0	27.0	29.6	27.4	11.5	41.9	29.1
（再掲）50人以上	[91.3]	100.0	54.6	32.4	49.5	45.0	41.2	21.8	73.6	39.3
令和4年 合 計 （事業所規模）	[63.4]	100.0	29.6	23.3	36.7	37.0	33.7	13.8	51.4	34.5
50人以上	[91.1]	100.0	53.8	30.8	48.5	41.3	39.0	21.6	73.1	47.7
30～49人	[73.1]	100.0	31.8	24.2	40.3	39.7	37.4	16.6	51.9	36.2
10～29人	[55.7]	100.0	20.9	20.6	31.9	34.8	31.0	10.5	44.0	29.6

区 分	ストレスチェックの実施	職場復帰における支援（職場復帰支援プログラムの策定を含む）	メンタルヘルス対策の取組内容（複数回答）					メンタルヘルス不調の労働者に対する必要な配慮の実施	その他のメンタルヘルス対策
			メンタルヘルス対策に関する事業所内の相談体制の整備	外部機関の活用					
				地域産業保健センター（地域窓口）を活用したメンタルヘルス対策の実施	産業保健総合支援センターを活用したメンタルヘルス対策の実施	医療機関を活用したメンタルヘルス対策の実施	他の外部機関 ²⁾ を活用したメンタルヘルス対策の実施		
合 計 （事業所規模）	65.0	25.1	45.0	3.6	2.8	10.0	11.1	49.6	1.9
1,000人以上	99.9	78.4	89.7	3.4	6.7	23.7	42.0	82.6	5.2
500～999人	99.7	74.3	80.8	1.2	5.7	14.3	32.1	80.8	8.2
300～499人	97.7	63.0	75.6	0.7	6.0	18.1	23.6	81.0	3.4
100～299人	94.9	39.5	61.1	0.7	3.1	17.8	17.6	63.0	0.6
50～99人	85.2	25.9	57.1	1.1	3.4	10.1	10.2	53.9	1.6
30～49人	58.1	28.3	47.1	4.4	2.9	10.5	12.2	48.7	3.1
10～29人	58.6	21.3	39.4	4.2	2.5	8.8	9.7	46.6	1.7
（再掲）50人以上	89.6	34.1	60.3	1.0	3.5	13.3	14.3	59.3	1.5
令和4年 合 計 （事業所規模）	63.1	23.9	46.1	3.7	4.4	12.4	15.3	53.6	4.2
50人以上	93.0	32.0	53.1	1.4	5.0	16.9	19.8	57.7	4.1
30～49人	61.7	29.4	50.7	8.4	8.1	20.5	18.8	56.1	4.0
10～29人	53.5	19.7	42.5	3.2	3.2	8.8	12.9	51.6	4.2

注：1） []は、全事業所を100としたメンタルヘルス対策に取り組んでいる事業所の割合である。

2） 「他の外部機関」とは、精神保健福祉センター、中央労働災害防止協会などの心の健康づくり対策を支援する活動を行っている機関、メンタルヘルス支援機関などをいう。

《個人調査》

1 仕事や職業生活における不安やストレスに関する事項

第17表 仕事や職業生活に関する強い不安、悩み、ストレスの有無及び内容（主なもの3つ以内）別労働者割合

令和5年 (単位:%)

区 分	労働者計 ¹⁾	強い不安、悩み、ストレスと 感じる事柄がある ²⁾		強い不安、悩み、 ストレスの内容（主なもの 3つ以内）		強い不安、悩 み、ストレス とを感じる事柄 がない
				仕事の量	その他の事柄	
合 計 ³⁾	100.0	<u>82.7</u>	(100.0)	(39.4)	(13.2)	16.7
(年 齢 階 級)						
20歳未満	100.0	21.1	(100.0)	(14.9)	(30.8)	78.9
20～29歳	100.0	72.0	(100.0)	(38.1)	(12.3)	27.2
30～39歳	100.0	86.0	(100.0)	(34.7)	(10.6)	13.3
40～49歳	100.0	87.9	(100.0)	(49.7)	(11.6)	11.9
50～59歳	100.0	86.2	(100.0)	(31.9)	(16.7)	12.9
60歳以上	100.0	64.8	(100.0)	(38.3)	(14.6)	34.9
(性)						
男	100.0	84.0	(100.0)	(41.9)	(11.9)	15.7
女	100.0	81.1	(100.0)	(36.3)	(14.8)	17.9
(就 業 形 態)						
正社員	100.0	86.1	(100.0)	(41.2)	(10.3)	13.3
契約社員	100.0	79.8	(100.0)	(32.7)	(22.1)	19.5
パートタイム労働者	100.0	65.2	(100.0)	(31.3)	(26.2)	33.8
派遣労働者	100.0	83.5	(100.0)	(25.7)	(33.8)	16.4
令和4年 合計	100.0	82.2	(100.0)	(36.3)	(12.5)	17.5

注：1) 「労働者計」には、強い不安、悩み、ストレスとを感じる事柄の有無不明が含まれる。

2) ()は、「強い不安、悩み、ストレスとを感じる事柄がある」労働者を100とした割合である。

3) 「合計」には、「年齢階級」「性」「就業形態」の各区分の不明が含まれる。

【資料2】群馬県自殺総合対策行動計画

基本施策3 自殺対策を支える人材の育成

自殺対策の推進においては、様々な悩みや困難を抱える人に対して、誰もが早期の「気づき」に対応できるようになることが非常に重要です。行政職員、窓口担当者、一般県民など、幅広い分野の関係者に対してゲートキーパー養成研修を行うほか、研修の講師となれる人材の育成を推進します。

また、教職員や各種相談窓口の担当者に対して、自殺予防に関する正しい知識の普及や相談技術の向上を図ります。

(取組内容)

ア ゲートキーパーの養成

自殺に関する正しい知識の普及と身近な人の「気づき」を促すため、行政関係職員、民生委員・児童委員、一般県民等に対してゲートキーパー養成研修を実施するほか、自殺予防等に自主的に取り組む民間団体等が実施するゲートキーパー養成の取組を支援します。また、支援機関の職員や教職員を対象に、自殺の危機にある人への初期介入スキルの習得を支援します。【総務事務管理課、障害政策課、こころの健康センター、保健福祉事務所】

イ ゲートキーパー養成研修開催支援（再掲）

ゲートキーパー講師養成研修を通じて、新たにゲートキーパー養成研修の講師となれる人材の育成を推進し、市町村が実施するゲートキーパー養成研修の開催を支援します。【こころの健康センター】

ウ 地域保健・福祉関係者に対する研修

市町村保健福祉担当スタッフ等に対して、精神疾患や心の健康づくり、自殺予防に関する研修を実施します。【こころの健康センター、保健福祉事務所】

エ かかりつけ医・医療関係者に対する研修

うつ病等の早期発見・早期治療につなげるため、かかりつけ医に対して、うつ病対応力やアルコール問題対応力を向上させるための研修を実施します。また、医学生や看護学生等を対象にゲートキーパー養成研修を実施します。【こころの健康センター、保健福祉事務所】

オ 教職員に対する研修

児童生徒の心の悩みの早期発見・心のケアに関することなどについて、教職員に対する研修を実施します。【生活こども課、義務教育課、高校教育課、特別支援教育課、健康体育課、総合教育センター】

カ 自殺の社会的要因に対応する職員等に対する研修

自殺の原因・動機となり得る問題（多重債務、事業不振、生活困窮、子育てや介護の悩み、精神疾患）に関する相談機関の相談員等に対して、相談技術の向上についての研修を実施します。【消費生活課、私学・子育て支援課、児童福祉・青少年課、児童相談所、健康福祉課、薬務課、こころの健康センター、産業政策課】



11月1日 金曜日 仏滅

発行所(〒371-8666) 前橋市古市町1-50-21 上毛新聞社 (総合)027-254-9911 (編集)027-254-9933 (広告)027-254-9944 (販売)027-254-3131 (事業)027-254-9955 ©上毛新聞社 2024年

不登校 最多4700人

01年度以降 求められる支援充実

23年度県内

2023年度に県内の公立小中学校で30日以上欠席した不登校の児童生徒は前年度比318人増の4700人で、現行の調査方法になった01年度以降の最多を更新したことが文部科学省の問題行動・不登校調査で分かった。高校と特別支援学校を加えたいじめの認知件数は168件増の4330件で、パソコンや携帯電話を使った事例が増えた。



不登校の内訳は小学生1713人(前年度比216人増)、中学生2987人(102人増)で、それぞれ11年連続、10年連続で前年度を上回った。全児童生徒数に占める不登校の割合

は、小学生1・93%、中学生6・19%。不登校について学校側が把握した事実を複数回答で確認したところ、小学校は「学校生活に対してやる気が出ないなどの相談があった」が673件で最多だった。「不安・抑うつ」の相談428件、「生活リズムの不調に関する情報や相談」397件と続いた。中学校でも同様の傾向だった。県教委は増加の要因について、無理に学校に行く必要がないといった保護者の意識の変化や、新型コロナウイルス

ウィルス禍を経て休むことへの抵抗感が薄れたことなどを挙げる。義務教育課は「増加を重く受け止めている。支援を充実し、学びにアクセスできない子どもをゼロにしたい」とした。全国の調査結果(国立、私立含む)でも不登校の児童生徒は11年連続で増加

し、前年度比4万7434人(15・9%)増の34万6482人で最多を更新した。結果について、子どもや家庭を福祉の視点で支援する県社会福祉士会の高橋知之事務局長は「不登校と言っても原因はさまざま。各家庭に必要な支援を届けた

り、子どもの意見をくみ取ったりするシステムが必要。学校以外でも教育を受けられる環境やそこにつながる仕組みの充実が大切だ」と指摘した。一方、県内公立校のいじめの認知件数は、小学校が2703件で前年度から15件減ったものの、中学校869件、高校463件、特別支援学校295件とそれぞれ57、67件増加した。いじめを態様別(複数回答で見ると、小学校で「冷やかしからい」が1641件と最多。「軽い暴力」702件、「嫌なことをさせられる」453件と続いた。他にもパソコンや携帯電話

話を使ったりはじめが全学校種で計228件と前年度から25件増えた。中学校は75件で20件減ったものの、小学校が23件増の56件、高校22件増の95件、特別支援学校は横ばいの2件だった。義務教育課は「数字は氷山の一角で、認知できていない事例もあると思われる。今後もネットを使った

いじめの防止、情報通信技術(ICT)リテラシーの向上に力を入れた」としている。全国の認知件数(国立、私立含む)は前年度比7・4%増の73万2568件。このうち身体的被害や長期欠席などが生じた「重大事態」は1306件で、初めて千件を超えた。(中里圭秀)

上毛新聞社提供

【資料5】日本基礎心理学会大会シンポ

The Japanese Journal of Psychonomic Science

2018, Vol. 37, No. 1, 43–50

DOI: <http://doi.org/10.14947/psychono.37.5>

日本基礎心理学会第36回大会

シンポジウム1

企業が心理学に期待するもの、心理学が企業に貢献できること

What do companies expect from psychology, and how can psychology contribute to them?

日 時：12月2日（土）9:00～12:00

場 所：立命館大学大阪いばらきキャンパス AN110

講 演 者：大瀧 翔（トヨタ自動車株式会社）

三枝千尋（花王株式会社）

磯貝里子（株式会社リバネス）

江川伊織（株式会社リバネス）

渋井 進（大学改革支援・学位授与機構）

指定討論者：綾部早穂（筑波大学）

司 会 者：田谷修一郎（慶應義塾大学）

1. はじめに

このシンポジウムはふたつの目的を持って開催された。第1の目的は、心理学を系統的に学んだ人間が、大学や基礎科学の研究所（理化学研究所や生理学研究所等）に職を得る以外にどのような進路を取り得るのか、という間について、現在大学院への進学を検討している学部生や修士・博士の学位の取得を目指している大学院生、および現在大学・研究所にて期限付きで就労する博士号取得者に情報を提供することであった。本シンポジウムの第2の目的は、民間企業における商品開発や業務改善等のために基礎心理学の知識や研究経験をどのように役立てることができるのか、心理学の専門知識がない一般の方々に広く知ってもらうことであった。

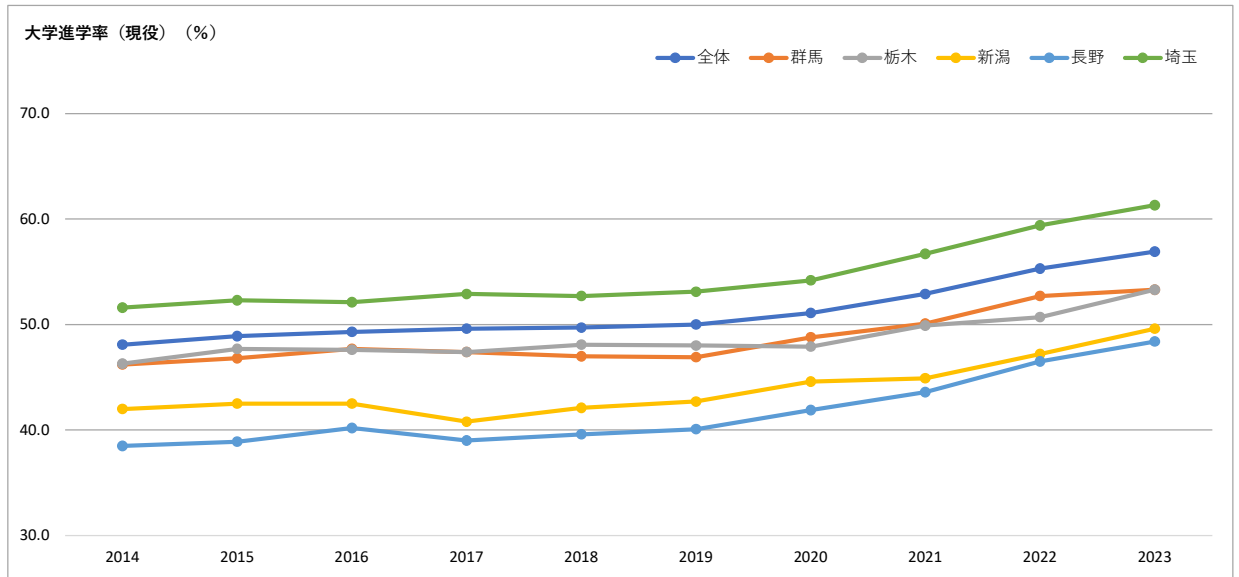
本企画は2017年5月に行われた「若手研究者特別委員会（以下若手会）」の会議内で提案され、第36回大会主催の立命館大学実行委員会の承認を受け実現した。企画詳細の調整、実行にあたっては、「実験心理学者としての多様なキャリアパスを考える特別委員会（以下キャリアパス委員会）」の協力を得た。

本シンポジウムでは、第1の目的である、学界外へのキャリアパスの紹介のために、トヨタ自動車、花王、リバネス、および大学改革支援・学位授与機構から5名の登壇者をお招きし、現在のお仕事に従事されることと

なった経緯と主な業務内容、および心理学の知識や研究経験がどのように現在の仕事に活かされているかをお話しいただいた。シンポジウムの第2の目的である、学界外に心理学の応用可能性をアピールするという点については、若手会会議の段階では、シンポジウムの会場に各企業の採用担当者も招聘し、企業への就職も視野にある学生や研究員にはその場で就職活動が行えるような場としたいといったアイデアもあったように思う。様々な理由でこれは実現できなかったが、幸い『基礎心理学研究』は数年前からオープンアクセスとなっているため、この原稿が心理学の応用可能性を周知するという目的を果たしてくれることを期待したい。

この原稿は、5名の登壇者に提供いただいた話題と資料にもとづき、企画と司会を担当した田谷が執筆し登壇者毎にまとめたものである。各節の冒頭には登壇者の略歴と専門分野等を示した。続いて、業務内容とそこでどのように心理学の知識と技術が活かされているか、およびそれぞれの組織が心理学に期待するものを記した。各パートの記述内容については登壇者の確認と修正を経た。本稿が、学生や研究員の進路を考える一助となれば、そして心理学のことをよく知らない多くの人たち（例えば進学先を検討中の中学生高校生、企業の人々）にも読まれ、心理学が持つ応用可能性とその射程の広さを知っていただければ幸いである。

【資料6】群馬県及び隣接4県の大学進学者数・進学率（現役）の推移



		H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)
全体	進学率	48.1	48.9	49.3	49.6	49.7	50	51.1	52.9	55.3	56.9
	指数	100.0	101.7	1025	103.1	103.3	104.0	106.2	110.0	115.0	118.3
群馬	卒業生数	17,001	176,681	17,307	17,298	17,316	17,155	17,170	16,496	16,472	15,779
	進学者数	7,855	8,283	8,264	8,201	8,146	8,039	8,378	8,266	8,679	8,418
	進学率	46.2	46.8	47.7	47.4	47.0	46.9	48.8	50.1	52.7	53.3
栃木	卒業生数	17,498	17,589	17,656	17,595	17,210	17,428	17,354	16,805	16,468	15,875
	進学者数	8,105	8,385	8,400	8,343	8,275	8,359	8,313	8,394	8,348	8,456
	進学率	46.3	47.7	47.6	47.4	48.1	48.0	47.9	49.9	50.7	53.3
新潟	卒業生数	20,091	20,434	20,059	20,013	19,463	19,093	18,854	17,659	17,631	16,937
	進学者数	8,444	8,677	8,525	8,173	8,186	8,152	8,408	7,937	8,316	8,401
	進学率	42.0	42.5	42.5	40.8	42.1	42.7	44.6	44.9	47.2	49.6
長野	卒業生数	18,887	18,887	18,988	18,974	18,923	18,539	18,585	18,064	17,478	16,833
	進学者数	7,279	7,352	7,628	7,393	7,486	7,428	7,791	7,878	8,122	8,154
	進学率	38.5	38.9	40.2	39.0	39.6	40.1	41.9	43.6	46.5	48.4
埼玉	卒業生数	55,057	57,093	57,150	57,262	56,970	56,992	56,643	55,098	54,053	52,446
	進学者数	28,425	29,860	29,801	30,311	30,037	30,241	30,715	31,214	32,130	32,155
	進学率	51.6	52.3	52.1	52.9	52.7	53.1	54.2	56.7	59.4	61.3

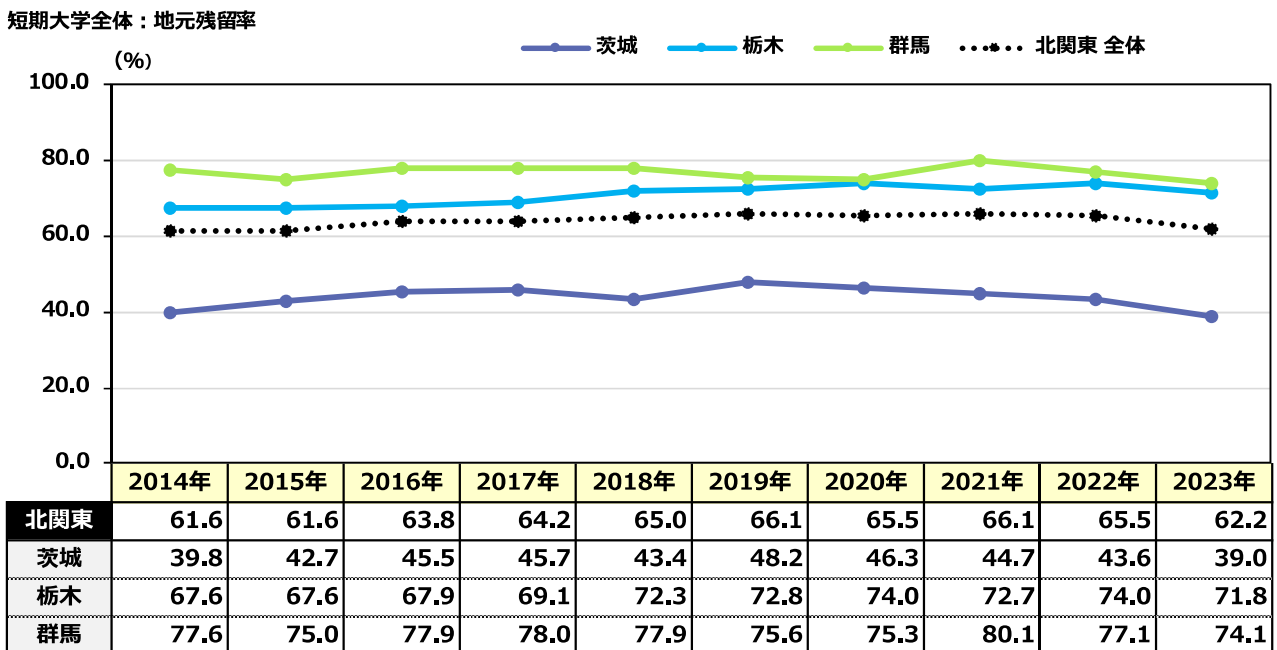
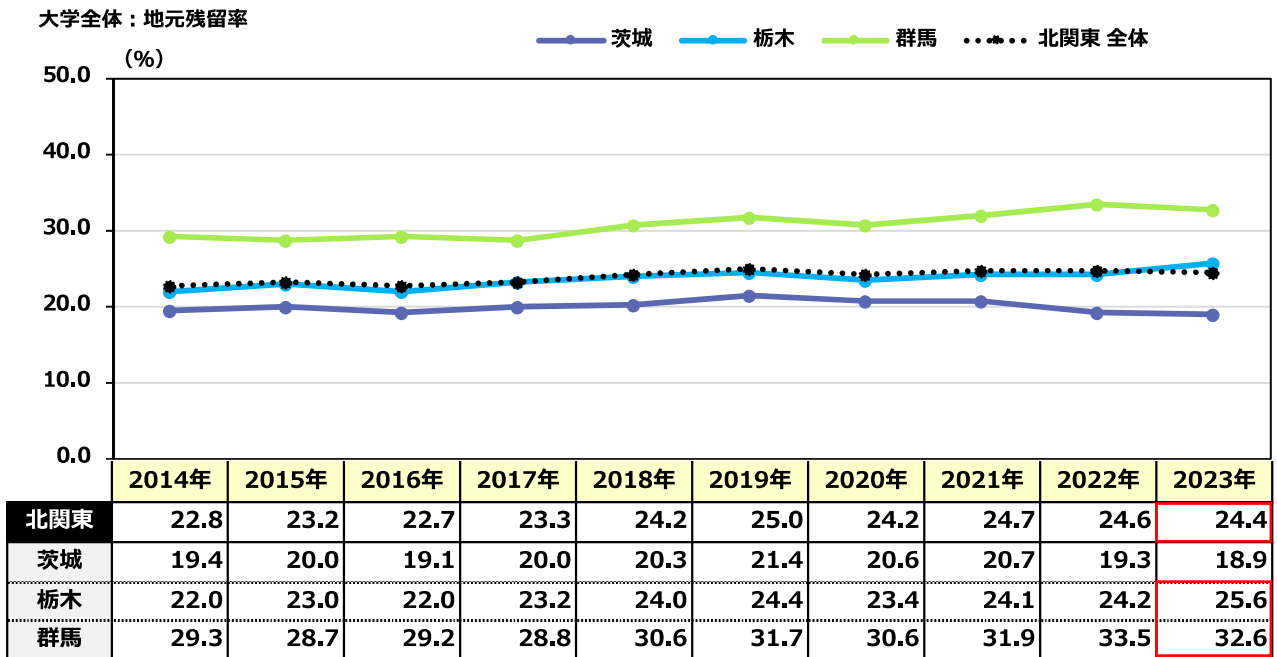
＊(出典)株式会社リクルート リクルート進学総研マーケットリポート2023

「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向」全国版・北関東版・甲信越版・南関東版より作成(データ元:文部科学省「学校基本調査」)

地元残留率の推移（全体：北関東：2014～2023年）

- 大学は、2014年22.8%→2023年24.4%（1.6ポイント上昇）
- 短期大学は、2014年61.6%→2023年62.2%（0.6ポイント上昇）

- ・ 大学で上昇率が高いのは、栃木県（2014年22.0%→2023年25.6%、3.6ポイント上昇）。
- ・ 短期大学で上昇率が高いのも、栃木県（2014年67.6%→2023年71.8%、4.2ポイント上昇）。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・ 残留率：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）

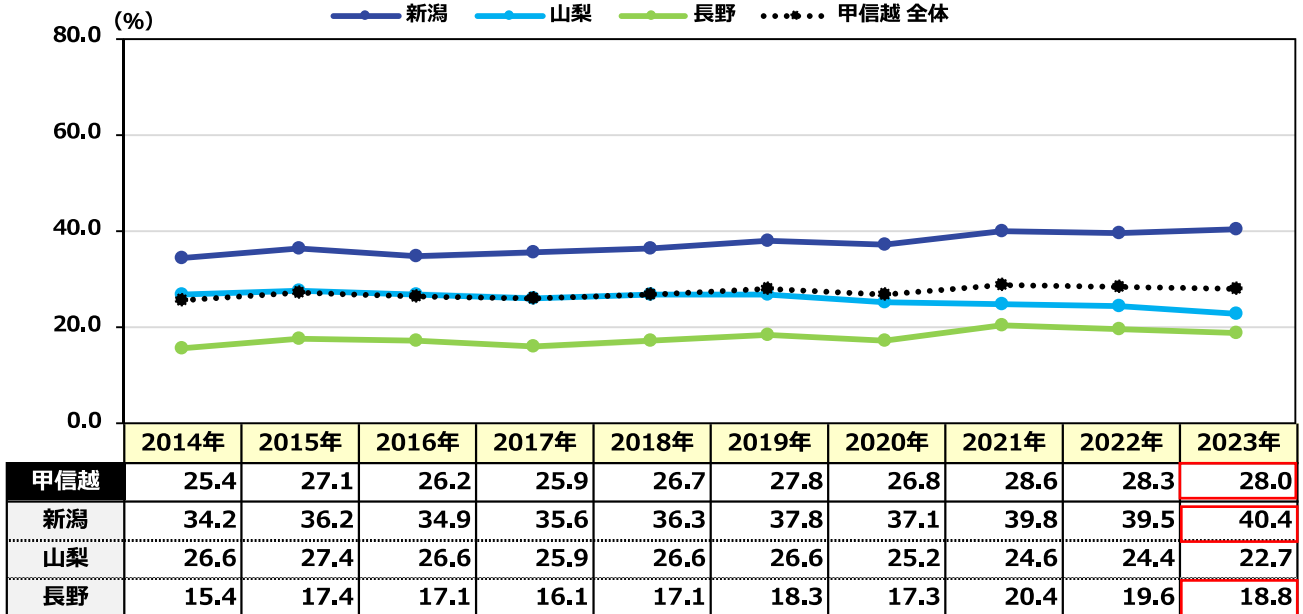
出典：株式会社リクルート リクルート進学総研マーケットリポート2023 Vol.121（2024年2月号）
18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向（北関東版）
https://souken.shingakunet.com/research/ndf/2023_souken_report/2023_kitakanto_souken_report.pdf

地元残留率の推移（全体：甲信越：2014～2023年）

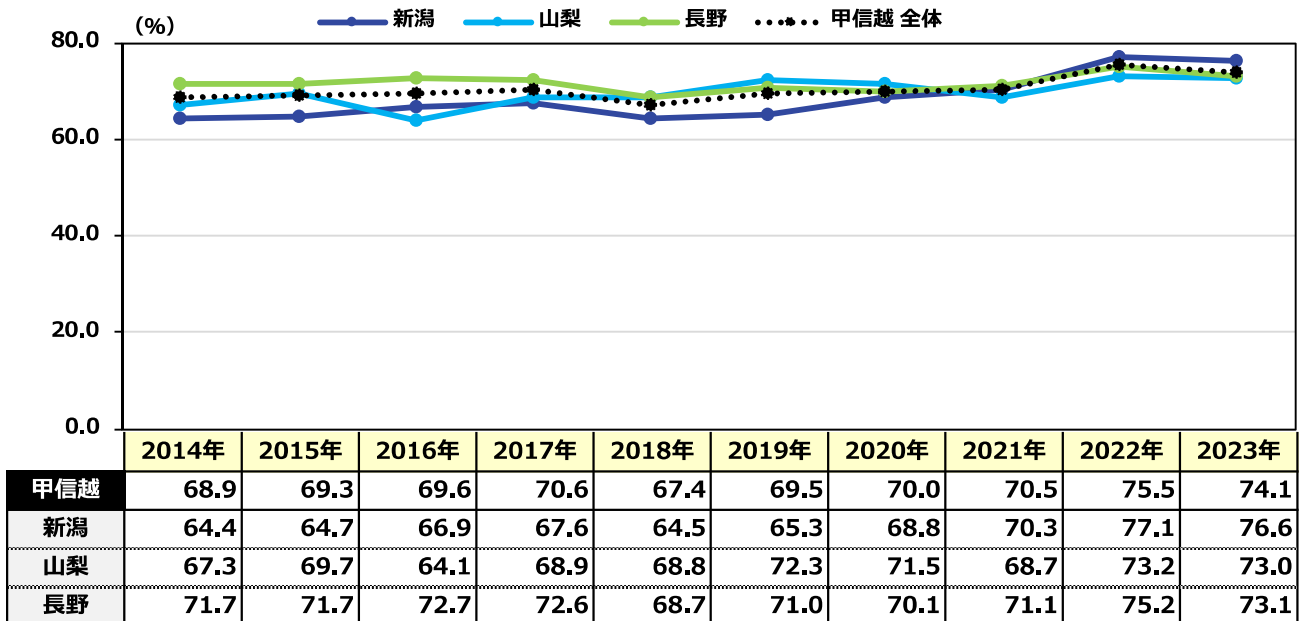
■ 大学は、2014年25.4%→2023年28.0%（2.6ポイント上昇）
 短期大学は、2014年68.9%→2023年74.1%（5.2ポイント上昇）

- ・ 大学で上昇率が高いのは、新潟県（2014年34.2%→2023年40.4%、6.2ポイント上昇）。
- ・ 短期大学で上昇率が高いのも、新潟県（2014年64.4%→2023年76.6%、12.2ポイント上昇）。

大学全体：地元残留率



短期大学全体：地元残留率



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

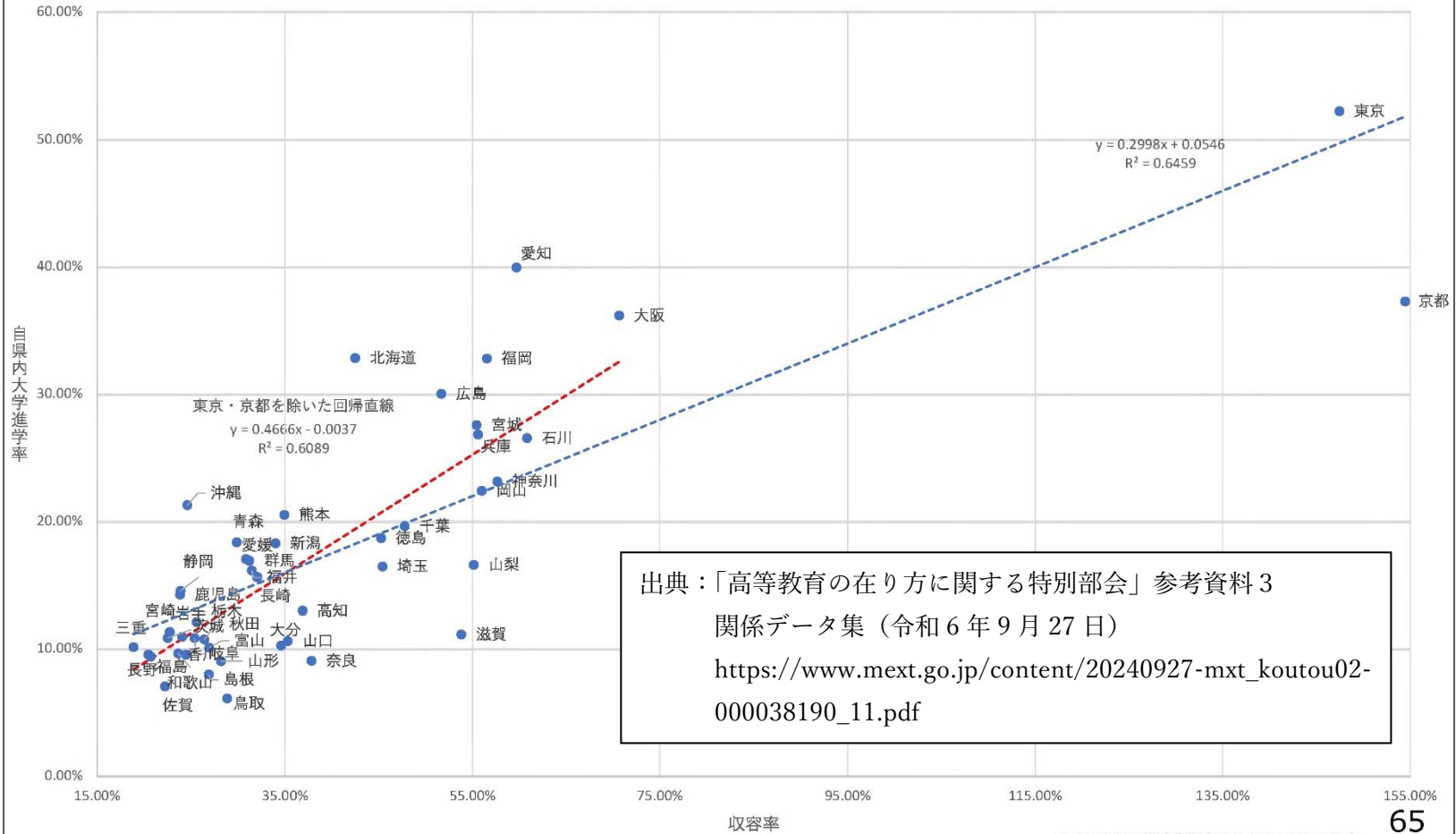
・ 残留率：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）

出典：株式会社リクルート リクルート進学総研マーケットリポート2023 Vol.123(2024年2月号)
 18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向(甲信越版)
https://souken.shingakunet.com/research/pdf/2023_souken_report/2023_koshinetsu_souken_report.pdf

リクルート進学総研

収容率と自県内大学進学率の相関関係

- 収容率と自県内大学進学率には、強い正の相関関係があり、収容率が高い都道府県ほど、自県内進学率が高い傾向にある。
- 収容率の極めて高い東京・京都を除いても、収容率と自県内進学率には強い正の相関関係が認められる。



【資料9】東京都・埼玉県の大学 心理系学部・学科（入学定員100名超）の入学志願状況

所在地	大学	学部・学科	入学定員 (A)	令和4(2022)年度						令和5(2023)年度						令和6(2024)年度						備考
				志願者数 (B)	受験者数 (C)	合格者数 (D)	志願倍率 (B)/(D)	入学者数 (E)	定員充足率 (E)/(A)	志願者数 (B)	受験者数 (C)	合格者数 (D)	志願倍率 (B)/(D)	入学者数 (E)	定員充足率 (E)/(A)	志願者数 (B)	受験者数 (C)	合格者数 (D)	志願倍率 (B)/(D)	入学者数 (E)	定員充足率 (E)/(A)	
東京都	東洋大学	社会学部 社会心理学科	150	2,526	不明	581	4.35	156	1.04	2,411	不明	659	3.66	158	1.05	2,859	不明	666	4.29	159	1.06	
	明治学院大学	心理学部 心理学科	175	不明	不明	不明	-	181	1.03	2,116	不明	399	5.30	176	1.01	1,887	不明	438	4.31	190	1.09	
埼玉県	立教大学	現代心理学部 心理学科	143	1,995	不明	367	5.44	141	0.99	1,796	不明	462	3.89	147	1.03	1,734	不明	474	3.66	154	1.08	
	文教大学	人間科学部 心理学科	140	1,020	962	635	1.61	142	1.01	1,011	931	549	1.84	168	1.20	975	895	585	1.67	167	1.19	欄外*2参照
		人間科学部 臨床心理学科	120	859	769	474	1.81	139	1.16	811	747	396	2.05	133	1.11	790	726	375	2.11	130	1.08	欄外*2参照

*1 各大学の情報公開ページから作成。表中「不明」は、調査時点で公表されていなかったデータ

*2 文教大学は、調査時点で令和4年度・5年度の学科別入学者数が不明なため、令和4年度入学者は令和6年度3年次在籍者数、令和5年度入学者は同2年次在籍者数で代用

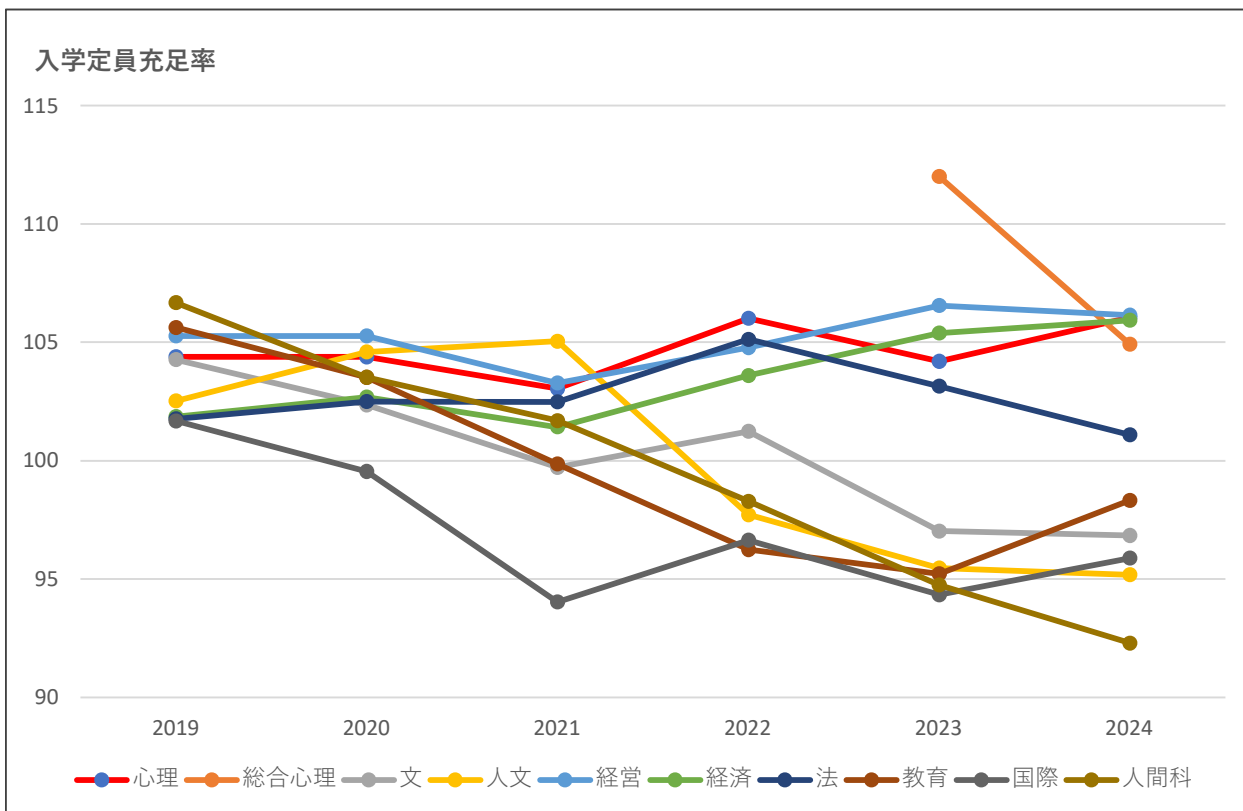
【資料10】心理学部志願者・入学者動向

出典：日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」

* 同報告における前年数値を確定値として使用（R6は速報値）

年度	学部数	入学定員	志願者	入学者	入学定員充足率
令和元（2019）	18	2,713	28,076	2,832	104.39
令和2（2020）	21	2,968	29,548	3,098	104.38
令和3（2021）	22	3,053	24,990	3,146	103.05
令和4（2022）	25	3,528	28,259	3,740	106.01
令和5（2023）	26	3,783	32,716	3,942	104.20
令和6（2024）	26	3,884	31,032	4,119	106.05

〈私立大学の主な学部別入学定員充足率の推移〉



日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」より、心理学部・総合心理学部と、人文・社会科学系のうち令和6年度の集計学部数が30以上となっている学部を抽出し、各年度の入学定員充足率をグラフ化

JOMO tto じよもっと

買う・トレンド日 まなぶ 月 すこやか 火 スマートライフ 水

群馬の高校生が興味を持っている国公立大学は群馬大、高崎経済大、筑波大の順一。こんな結果が、教育情報誌を発行するJ Sコーポ

レーション(大阪)の調査で明らかになった。私大では地元の医療・福祉系大学と、都内の有名大学で人気二分した。

地元の国公立や医療福祉系人気

国公立大			私立大		
順位	大学名	票数	順位	大学名	票数
1位	群馬大	678	1位	高崎健康福祉大	216
2位	高崎経済大	216	2位	青山学院大	201
3位	筑波大	197	3位	慶応大	146
4位	東京大	184	4位	群馬医療福祉大	141
5位	千葉大	164	5位	早稲田大	135
7位	県立県民健康科学大	131	6位	群馬/バース大	134
10位	県立女子大	95	9位	高崎商科大	112
16位	前橋工科大	65	10位	桐生大	56
			11位	育英大	97
			12位	前橋国際大	92
			14位	上武大	86
			20位	関東学院大	36

JSコーポレーション調べ、2020～22年度
群馬県内の高校生8434人が回答



大学の人気ランキングで県内1位に選ばれた群馬大

「群馬大はもっと評価されてもよい」と話す板橋副学長



最初は内外から無理だと一笑に付されていたが、「やれるかもしれないと思う学生が出てきて、ベンチャー企業を立ち上げている。意識が変わってきた」。今回のランキング結果を受け、もっと人気を高めたいと意気込む。

大学から高校に出向いて高大連携の授業を開くなど、高校生向けのアピールを強化。学生の起業を支援したり、使える英語の力を鍛えたりと、即戦力として社会で活躍する学生の育成に取り組み、徐々に成果が出ているという。

(小泉浩一)

群馬大改革の具体的な内容、私大で上位に入った青山学院大の人気の理由など、さらに詳しい記事を上毛新聞のニュースサイトで配信しています。アクセスはQRコードから。



コロナで遠方敬遠か

調査は2020～22年度に、群馬の約8400人を含む全国約22万人の高校生を対象に、興味のある大学を尋ね、都道府県別に集計した。群馬で人気の国公立大は群馬大、高崎経済大の地元2校に、筑波大(茨城)、東京大、千葉大と続いた。県立県民健康科学大は7位、県立女子大は10位、前橋工科大は16位で、関東以外では東北大(宮城)6位、京都大13位だった。

私立大では1位高崎健康福祉

大、4位群馬医療福祉大、6位群馬バース大と、群馬県内の医療福祉系が上位にランクイン。医療福祉系以外では高崎商科大9位、育英大11位、共愛学園前橋国際大12位、上武大14位と続いた。都内の私大は青山学院大(2位)、慶応大(3位)、早稲田大(5位)、明治大(7位)、上智大(8位)、立教大(10位)の6大学がトップ10入り。新島襄ゆかりの同志社大(京都)は21位だった。

学習塾、うすい学園(本部・高崎市)の富田桂三高等部部門長は「群馬の高校生は国公立志向が非

常に高い。調査期間はコロナ下で、遠方の大学は選びにくかったのではないかと分析する。その上で、研究都市として教育環境が充実している筑波大、法政経学部や薬学部など近県にない学部がある千葉大の人气が高まったとみる。

即戦力育成で成果

「群馬大で、『SNK』を知らない学生はいません」と同大の板橋英之副学長(60)は笑う。7年前から板橋さんが提唱する「スタンフォード大を、抜く、計画」。

上毛新聞社提供

【資料12】 競合校の入学志願状況

所在地	大学	学部・学科	入学定員 (A)	令和4(2022)年度						令和5(2023)年度						令和6(2024)年度						備考
				志願者数 (B)	受験者数 (C)	合格者数 (D)	入学者数 (E)	志願倍率 (B)/(A)	定員充足率 (E)/(A)	志願者数 (B)	受験者数 (C)	合格者数 (D)	入学者数 (E)	志願倍率 (B)/(A)	定員充足率 (E)/(A)	志願者数 (B)	受験者数 (C)	合格者数 (D)	入学者数 (E)	志願倍率 (B)/(A)	定員充足率 (E)/(A)	
群馬県	東京福祉大学	心理学部 心理学科	230	511	471	446	237	2.22	1.03	415	394	381	213	1.80	0.93	476	449	443	284	2.07	1.23	
埼玉県	聖学院大学	心理福祉学部 心理福祉学科	120	512	485	430	120	4.27	1.00	418	396	385	115	3.48	0.96	335	不明	311	116	2.79	0.97	
	埼玉学園大学	人間学部 心理学科	100	不明	360	不明	117	3.6	1.17	不明	258	不明	127	2.58	1.27	不明	不明	不明	112	-	1.12	
	文京学院大学	人間学部 心理学科	100	不明	不明	不明	111	-	1.11	不明	不明	不明	105	-	1.05	332	289	222	90	3.32	0.90	
	十文字学園女子大学	教育人文学部 心理学科	120 R6~ 110	不明	不明	不明	121	-	1.01	218	188	142	119	1.57	0.99	196	174	115	104	1.78	0.95	
	駿河台大学	心理学部 心理学科	140	480	450	231	159	3.43	1.14	408	392	184	160	2.91	1.14	317	303	189	148	2.26	1.06	
栃木県	白鷗大学	教育学部 発達科学科心理学専攻	40	361	351	166	不明	9.03	-	277	275	174	60	6.93	1.50	288	278	183	61	7.20	1.53	
新潟県	新潟青陵大学	福祉心理子ども学部 臨床心理学科	50	311	311	98	55	6.22	1.10	258	257	100	60	5.16	1.20	237	237	94	55	4.74	1.10	
	新潟医療福祉大学	心理・福祉学部 心理健康学科	80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	182	157	153	80	2.28	1.00	令和6年4月開設

*1 群馬県、埼玉県、栃木県および新潟県の私立大学で、公認心理師の学部要件を満たしている課程を選定した。

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科社会福祉専攻心理福祉コース（群馬県）および清泉女学院大学人間学部心理コミュニケーション学科心理コース（長野県）は新設組織と類似性が強いが、コース単独の学生数・志願状況が公表されていないため、対象から除外した。

*2 各大学の情報公開ページから作成。表中「不明」は、調査時点で公表されていなかったデータ

埼玉学園大学は志願者数が公表されていないため、志願倍率は入学定員に対する受験者数の割合で算出

高崎健康福祉大学
「人間発達学部 心理学科」
(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【高校生対象調査】

令和7年6月
株式会社 進研アド

－学生確保（資料）－17－

1. 調査目的

2026年4月開設予定の高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」(仮称)の設置構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

2. 調査概要

		高校生対象調査
調査対象		高校3年生
調査エリア		栃木県、群馬県、埼玉県、新潟県、長野県
調査方法		高校留め置き調査
調査対象数	依頼数 (依頼校数)	11,139名(56校)
	有効回収数 (有効回収校数)	4,791名(49校) 有効回収率:43.0%
調査時期		2025年5月14日(水)～2025年6月7日(土)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

高校生対象調査
<ul style="list-style-type: none"> ・性別 ・学年 ・高校所在地 ・高校種別 ・所属クラス ・高校卒業後の希望進路 ・志望する設置者 ・興味のある学問分野 ・高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」の特色に対する魅力度 ・高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」への受験意向 ・高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」への入学意向 ・昨年実施のアンケート回答有無 ・昨年回答したアンケート

入学意向調査 調査結果

※報告書内の表中の%の母数は、
特に断りがない場合、回答者全体(4,791名)

回答者の属性

※本調査は、高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」に対する需要を確認するための調査として設計。高崎健康福祉大学の主な学生募集エリアである栃木県、群馬県、埼玉県、新潟県、長野県に所在する高校の高校3年生に調査を実施し、4,791名から回答を得た。

- 回答者の性別は「男性」が41.3%、「女性」が56.3%である。
- 回答者の学年は「3年生」が100.0%である。
- 回答者の在籍高校所在地は、高崎健康福祉大学の所在地である「群馬県」が75.3%を占め、最も多い。次に「埼玉県」が8.4%、「栃木県」が6.1%と続く。
- 回答者の高校種別は、「公立」が67.3%、「私立」が32.7%である。
- 回答者の所属クラスは「文系クラス(文系コース)」が49.3%で最も多い。次に「理系クラス(理系コース)」が26.8%と続く。

回答者の属性

■性別

Q1. あなたの性別について、当てはまるものを一つ選んでください。

	標本数	男性	女性	その他	回答しない	無回答
上段:% 下段:件数(名)						
全体	4,791	41.3 1,979	56.3 2,699	0.3 16	2.0 97	0.0 0

■学年

Q2. あなたの現在の学年について、当てはまるものを一つ選んでください。

	標本数	高校 1 年生	高校 2 年生	高校 3 年生	その他	無回答
上段:% 下段:件数(名)						
全体	4,791	0.0 0	0.0 0	100.0 4,791	0.0 0	0.0 0

■高校所在地

Q3. あなたが在籍している高校の都道府県について、当てはまるものを一つ選んでください。

	標本数	栃木県	群馬県	埼玉県	新潟県	長野県	無回答
上段:% 下段:件数(名)							
全体	4,791	6.1 291	75.3 3,606	8.4 401	4.4 209	5.9 284	0.0 0

■高校種別

Q4. あなたが通っている高校名について、当てはまるものを一つ選んでください。

	標 本 数	公 立	私 立	無 回 答
上段：％ 下段：件数(名)				
全体	4,791	67.3 3,225	32.7 1,566	0.0 0

■所属クラス

Q5. あなたが所属しているクラス(コース)について、当てはまるものを一つ選んでください。

	標 本 数	文 系 ク ラ ス (文 系 ク ラ ス)	理 系 ク ラ ス (理 系 ク ラ ス)	コ ー ス 選 択 は な い	そ の 他	無 回 答
上段：％ 下段：件数(名)						
全体	4,791	49.3 2,364	26.8 1,286	10.4 498	13.4 643	0.0 0

高校卒業後の希望進路

- ・ 回答者のうち、今後「大学」に進学することを検討・希望している人は76.9%。次いで「専門学校」に進学が20.2%と続く。「短期大学」に進学は7.1%、「専門職大学」に進学は2.5%、「専門職短期大学」に進学は0.7%である。
- ・ 高校卒業後の希望進路として「大学」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」のいずれかを選択した人に、設置者ごとの進学希望を複数回答で聴取した。その結果、高崎健康福祉大学の該当する「私立」への進学を希望する人は75.0%、「国立」が34.7%、「公立」が31.4%であった。

■高校卒業後の進路

Q6. あなたは、卒業後の進路をどのように考えていますか。

現在検討している進路をすべて選択してください。(複数選択可)

	標本数	大学	短期大学	専門職大学	専門職短期大学	専門学校	就職	その他	無回答
上段: % 下段: 件数(名)									
全体	4,791	76.9 3,682	7.1 339	2.5 119	0.7 33	20.2 966	8.2 395	1.0 47	0.0 0

※「大学」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」のいずれかを選択した3,907名を抽出

■希望する大学等の区分(設置者)

Q7. 前問で「大学」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」のいずれかを選択した方に質問です。

志望する大学などの設置者の希望を選択してください。

現在検討している(希望している)設置者をすべて選択してください。(複数選択可)

	標本数	私立	国立	公立	無回答
上段: % 下段: 件数(名)					
全体	3,907	75.0 2,931	34.7 1,356	31.4 1,227	0.0 0

興味のある学問分野

- 回答者の興味のある学問分野を複数回答で聴取したところ、「その他」を除き「経済・経営学」が22.3%で最も高い。「人間発達学部 心理学科」の学びと関連する「心理学」は13.3%である。
- 回答者のうち、私立大学進学希望者に限定すると、興味のある学問分野は「その他」を除き「経済・経営学」が27.9%で最も高い。「人間発達学部 心理学科」の学びと関連する「心理学」は16.5%である。

<私立大学進学希望者>

- ① Q6で卒業後の進路として「大学」を希望。
- ② Q7で「私立」への進学を希望。

■興味のある学問分野

Q8. 高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。

以下の項目から、興味のある学問分野をすべて選択してください。(複数選択可)

※現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。

	標本数	心理学	幼稚教育学 (小学校・ 幼稚園教員養成など)	社会福祉学	看護学	理学療法学	薬学	家政学 (食品栄養学を 含む)	農学	文学
上段:% 下段:件数 (名)										
全体	4,791	13.3 637	14.8 711	5.9 283	10.8 518	6.6 318	2.9 140	4.0 193	4.2 202	10.2 489

	標本数	法学	経済・経営学	理学	工学	情報学	その他	わからない	無回答
上段:% 下段:件数 (名)									
全体	4,791	7.2 346	22.3 1,070	5.7 273	7.6 362	6.8 324	25.9 1,240	4.9 237	0.0 0

<私立大学進学希望者ベース>

	標本数	心理学	幼稚教育学 (小学校・ 幼稚園教員養成など)	社会福祉学	看護学	理学療法学	薬学	家政学 (食品栄養学を 含む)	農学	文学
上段:% 下段:件数 (名)										
私立大学 進学希望者	2,745	16.5 454	16.1 441	7.1 195	10.5 287	7.9 216	3.2 89	4.4 120	3.5 97	12.7 348

	標本数	法学	経済・経営学	理学	工学	情報学	その他	わからない	無回答
上段:% 下段:件数 (名)									
私立大学 進学希望者	2,745	9.1 250	27.9 765	4.5 124	5.6 155	5.7 157	21.8 598	3.4 93	0.0 0

※%の母数は、私立大学進学希望者(2,745名)

高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」への受験・入学意向

※ここからは、下記の①～③の条件すべてに合致する回答者を、
高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」のターゲット層と定義し、分析を行う。

- ① Q6で卒業後の進路として「大学」を希望。
- ② Q7で「私立」への進学を希望。
- ③ Q8で「人間発達学部 心理学科」の学びと関連する学問分野への興味あり。
(心理学に興味あり)


高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」クロス集計結果

高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」クロス集計結果

■高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」クロス集計結果

Q10. あなたは、「高崎健康福祉大学 人間発達学部 心理学科」(仮称、設置認可申請中)が開設された場合、受験を希望しますか。あなたの考えに近い選択肢を、次より一つ選択してください。

Q11. 前問で「**【Q10の選択内容】**」を選択した方に質問です。「高崎健康福祉大学 人間発達学部 心理学科」(仮称、設置認可申請中)を受験して合格した場合、入学を希望しますか。あなたの考えに近い選択肢を、次より一つ選択してください。

回答者数 (合計)	Q6 卒業後の進路	Q7 進学希望の 大学設置者	Q8 興味のある 学問分野	Q10 新設組織の 受験希望有無	Q11 合格した場合の 入学希望有無
4,791名	うち、	うち、	うち、	うち、	うち、
	①大学 に進学 3,682名 (76.9%)	①私立 2,745名 (57.3%)	①心理学 を選択 454名 (9.5%) ※新設組織に 該当する 学問分野を 選択した者 のみ記載	①第一志望として 受験する 61名 (1.3%)	①入学する 59名 (1.2%)
					②志望順位が 上位の他の学科・志 望校が不合格 の場合に入学する 0名 (0.0%)
					③入学しない 2名 (0.0%)
②第二志望として 受験する 50名 (1.0%)	①入学する 8名 (0.2%)				
	②志望順位が 上位の他の学科・志 望校が不合格 の場合に入学する 40名 (0.8%)				
	③入学しない 2名 (0.0%)				
③第三志望以降 として受験する 130名 (2.7%)	①入学する 4名 (0.1%)				
	②志望順位が 上位の他の学科・志 望校が不合格 の場合に入学する 109名 (2.3%)				
④受験しない	③入学しない 17名 (0.4%)				
					 入学見込者※ 59名

※%の母数は、回答者全体(4,791名)

※「入学見込者」=ターゲット層のうち、Q10で「人間発達学部 心理学科」を「第一志望として受験する」かつQ11で「入学する」と回答した人

高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」の特色に対する魅力度

【「人間発達学部 心理学科」ターゲット層】

下記の①～③の条件すべてに合致する回答者: 454名(回答者全体の9.5%)

- ① Q6で卒業後の進路として「大学」を希望。
- ② Q7で「私立」への進学を希望。
- ③ Q8で「人間発達学部 心理学科」の学びと関連する学問分野への興味あり。
(心理学に興味あり)



- ターゲット層における「人間発達学部 心理学科」の特色に対する魅力度(※)を見ると、最も高いのは「特色3. 学ぶ人の興味に合わせた心理学に関する専門講義を受講することができ、心理学の基礎知識や、統計学、心理学研究法などの論理的・科学的な実践スキルが身につく。」(95.8%)。次いで「特色1. 実践的な学びを通じて、心理学の観点に基づいた対人支援を展開できる心理専門職(公認心理師等の心理カウンセラー)を育成する。」(93.8%)と続く。
- 同様に、ターゲット層該当者のうち、「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人(第一志望者)における「人間発達学部 心理学科」の特色を見ると、最も高いのは「特色1」(100.0%)である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」の特色に対する魅力度

■高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」の特色に対する魅力度

Q9. 高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」(仮称、設置認可申請中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。次より一つずつ選択してください。

特色1. 実践的な学びを通じて、心理学の観点に基づいた対人支援を展開できる心理専門職(公認心理師等の心理カウンセラー)を育成する。

特色2. メンタルヘルスの基礎知識を活かしたコミュニケーションスキルと科学的思考を身につけて、認定心理士、社会調査士などの資格取得ができる。

特色3. 学ぶ人の興味に合わせた心理学に関する専門講義を受講することができ、心理学の基礎知識や、統計学、心理学研究法などの論理的・科学的な実践スキルが身につく。

上段:% 下段:件数(名)	標本数	特色1	特色2	特色3
ターゲット層	454	93.8 426	93.0 422	95.8 435
第一志望者	59	100.0 59	96.6 57	98.3 58

※第一志望者:

ターゲット層(大学進学希望×私立×関連学問分野興味あり)該当者のうち、高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」を「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人

卷末資料 調查票



主催：高崎健康福祉大学

高崎健康福祉大学人間発達学部心理学科（仮称、設置認可申請中）に関するアンケート

下記アンケートにご協力お願いいたします。

アンケート回答に設問とは関係のない情報が入力されていないかご確認ください。

PCやスマートフォンなどの環境によっては
自動でメールアドレスなどが入力されることがあります。

高崎健康福祉大学では2026年（令和8年）4月より、「人間発達学部 心理学科」（仮称）を新設することを予定しています。

このアンケートは、高校生のみなさんの進路選択に対する考え方や、大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、高崎健康福祉大学の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただきます。

このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。

また、回答いただいた内容が、高校生のみなさんの本学への入学に影響を及ぼすことは一切ありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※このアンケートに記載されている「人間発達学部 心理学科」（仮称、設置認可申請中）に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

■この調査は、高校3年生の方が対象になります。
高校3年生以外の方は、ご回答いただく必要はございません。

C1

100%

◆はじめに、あなたご自身についてお聞きします。



ここで改ページ

Q1

あなたの性別について、当てはまるものを一つ選んでください。

◎ 単一回答

★ 必須回答

- ① 男性
- ② 女性
- ③ その他
- ④ 回答しない



ここで改ページ

調査票

Q2

あなたの現在の学年について、当てはまるものを一つ選んでください。

単一回答 必須回答

- ① 高校1年生
- ② 高校2年生
- ③ 高校3年生
- ④ その他



ここで改ページ

Q3

あなたが在籍している高校の都道府県について、当てはまるものを一つ選んでください。

単一回答 必須回答

↓ とじる

以下を選択



ここで改ページ

Q4

あなたが通っている高校名について、当てはまるものを一つ選んでください。

単一回答 必須回答

以下を選択



ここで改ページ

Q5

あなたが所属しているクラス（コース）について、当てはまるものを一つ選んでください。

単一回答 必須回答

▲ とじる

- ① 文系クラス（文系コース）
- ② 理系クラス（理系コース）
- ③ コース選択(はない)
- ④ その他



ここで改ページ

C2

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きます。



ここで改ページ

Q6

あなたは、卒業後の進路をどのように考えていますか。
現在検討している進路をすべて選択してください。（複数選択可）

✓ 複数回答

★ 必須回答

とじる

1 大学

2 短期大学

3 専門職大学

4 専門職短期大学

5 専門学校

6 就職

7 その他



ここで改ページ

Q7

前問で「大学」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」のいずれかを選択した方に質問です。

志望する大学などの設置者の希望を選択してください。
現在検討している（希望している）設置者をすべて選択してください。（複数選択可）

✓ 複数回答

★ 必須回答

▲ とじる

1 私立

2 国立

3 公立



ここで改ページ

Q8

高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。

以下の項目から、興味のある学問分野をすべて選択してください。（複数選択可）

※現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。

✓ 複数回答

★ 必須回答

▲ とじる

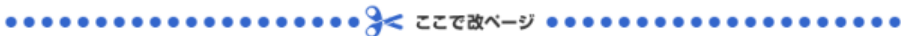
- 1 心理学
- 2 教育学（小学校・幼稚園教員養成など）
- 3 社会福祉学
- 4 看護学
- 5 理学療法学
- 6 薬学
- 7 家政学（食品栄養学を含む）
- 8 農学
- 9 文学
- 10 法学
- 11 経済・経営学
- 12 理学
- 13 工学
- 14 情報学
- 15 その他
- 16 わからない



ここで改ページ

C3

◆高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」（仮称、設置認可申請中）についてお聞きします。



C4

高崎健康福祉大学では、現在高校3年生のみなさんが大学生となる2026年（令和8年）4月に、新しく「人間発達学部 心理学科」（仮称）を設置することを予定しています。

▼ 画像をクリックして、別画面で表示される画像をご覧ください。 ▼
※クリック必須



ここからの質問には、「人間発達学部 心理学科」（仮称、設置認可申請中）の説明資料を見た上でご回答ください。

※このアンケートやご提示している資料に記載されている「人間発達学部 心理学科」（仮称、設置認可申請中）に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

Q9

高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」（仮称、設置認可申請中）には、以下のような特色があります。

それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。

次より一つずつ選択してください。

◎ 単一回答

★ 必須回答

▲ とじる

0/3

1 実践的な学びを通じて、心理学の観点に基づいた対人支援を展開できる心理専門職（公認心理師等の心理カウンセラー）を育成する。

2 メンタルヘルスの基礎知識を活かしたコミュニケーションスキルと科学的思考を身につけて、認定心理士、社会調査士などの資格取得ができる。

3 学ぶ人の興味に合わせた心理学に関する専門講義を受講することができ、心理学の基礎知識や、統計学、心理学研究法などの論理的・科学的な実践スキルが身につく。

① とても魅力を感じる

② ある程度魅力を感じる

③ あまり魅力を感じない

④ まったく魅力を感じない



Q10

あなたは、「高崎健康福祉大学 人間発達学部 心理学科」（仮称、設置認可申請中）が開設された場合、受験を希望しますか。あなたの考えに近い選択肢を、次より二つ選択してください。

▼ 画像をクリックして、別画面で表示される画像をご覧ください。 ▼

image

◎ 単一回答

★ 必須回答

▲ とじる

- ① 第一志望として受験する
- ② 第二志望として受験する
- ③ 第三志望以降として受験する
- ④ 受験しない



ここで改ページ

Q11

前問で「【Q10の選択内容】」を選択した方に質問です。

「高崎健康福祉大学 人間発達学部 心理学科」（仮称、設置認可申請中）を受験して合格した場合、入学を希望しますか。

あなたの考えに近い選択肢を、次より二つ選択してください。

※あなたの先ほどの回答：「高崎健康福祉大学 人間発達学部 心理学科」（仮称、設置認可申請中）を「【Q10の選択内容】」

▼ 画像をクリックして、別画面で表示される画像をご覧ください。 ▼

image

◎ 単一回答

★ 必須回答

▲ とじる

- ① 入学する
- ② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
- ③ 入学しない



ここで改ページ

Q12

あなたは、昨年実施された本アンケートと同じ内容の高崎健康福祉大学のアンケートに回答したことがありますか。

単一回答

必須回答

▲ とじる

- ① 同じアンケートに回答したことはない
- ② 同じアンケートに回答したことがある



ここで改ページ

Q13

前問で「同じアンケートに回答したことがある」を選択した方に質問です。
昨年回答したことがあるアンケートをすべて選択してください。（複数選択可）

複数回答

必須回答

▲ とじる

- ① 7月27日（土）実施の高崎健康福祉大学のオープンキャンパスで実施されたアンケート
- ② 7月28日（日）実施の高崎健康福祉大学のオープンキャンパスで実施されたアンケート
- ③ 8月17日（土）実施の高崎健康福祉大学のオープンキャンパスで実施されたアンケート
- ④ 8月18日（日）実施の高崎健康福祉大学のオープンキャンパスで実施されたアンケート
- ⑤ オープンキャンパスでアンケートに回答したが、参加日程は覚えていない
- ⑥ 9月2日から10月31日までに、高崎商科大学附属高等学校、樹徳高等学校、東京農業大学第二高等学校、高崎健康福祉大学高崎高等学校で配布された高崎健康福祉大学のアンケート
- ⑦ この中にあてはまるものはない



ここで改ページ

C5

アンケートは以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。
送信ボタンを押してください。



ここで改ページ

送 信

【資料 14】 高校生対象「進路に関するアンケート」調査結果

高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」(仮称) 設置に関するアンケート調査【高校生対象調査】

1. 調査目的

令和 8 年 4 月に開設予定の高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」の新設構想に関して、高校生のニーズを把握する。

2. 調査概要

調査方法	Web アンケート 心理学科の概要を記した文書と回答フォームが表示される二次元バーコードとを配布し、回答を要請した。
調査対象者	2024 年 7 月/8 月に実施した本学オープンキャンパスの参加者
調査期間	令和 6 年 7 月～令和 6 年 8 月
調査実施機関	高崎健康福祉大学
回収数	749 ※調査に協力する意思が確認された者

3. 調査項目

居住する都道府県、性別、学年、高校卒業後の希望進路、興味のある学問系統、「人間発達学部心理学科」への受験意向、「人間発達学部心理学科」への入学意向

4. クロス集計結果

高校 2 年生のうち、質問 1～質問 5 の条件に全て合致する 23 件

	〈質問 1〉 卒業後の進路 (学校種)	〈質問 2〉 大学等 設置者	〈質問 3〉 該当する 学問分野	〈質問 4〉 受験希望の 有無	〈質問 5〉 入学希望の 有無
高校 2 年生 260 人	「大学」 258 人	「私立」 220 人	「心理学系」 51 人	「第一志望で 受験する」 23 人	「入学する」 23 人

回答者の属性 居住地・性別・学年

居住地

群馬県	535
埼玉県	89
栃木県	47
長野県	31
新潟県	20
東京都	4
その他	23
計	749

性別

女性	552
男性	183
その他・回答しない	14
計	749

学年

高校1年生	192
高校2年生	260
高校3年生	285
その他	12
計	749

質問1 卒業後の進路をどのように考えていますか。(複数選択可)

①大学	738
②短期大学	41
③専門職大学	21
④専門職短期大学	4
⑤専門学校	62
⑥就職	17
⑦その他	7

質問2 質問1で①～④を選択した方に質問です。志望する大学などの設置者の希望を選択してください。(複数選択可)

①国立	295
②公立	322
③私立	619

質問3 高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。(複数選択可)

心理学系	159
教育学系	145
社会福祉学系	112
看護学系	111
理学療法学系	88
薬学系	289
家政学系	103
農学系	99
文学系	30
法学系	104
経済・経営学系	32
理学系	42
工学系	29
情報学系	21
その他	25

質問4 「高崎健康福祉大学 人間発達学部 心理学科(仮称)」が開設された場合、受験を希望しますか。次より一つ選択してください。

①第一志望として受験する	54
②第二志望として受験する	79
③第三志望以降として受験する	132
④受験しない	484
計	749

質問5 質問4で①～③を選択した方に質問です。「高崎健康福祉大学 人間発達学部 心理学科（仮称）」を受験して合格した場合、入学を希望しますか。次より一つ選択してください。

①入学する	79
②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	165
③入学しない	21
計	265

2026年 4月
開設予定

(設置構想中)

あらゆる世代の「生きる」を支える

ひと味違う認定心理士
できる公認心理師
目指せます。



誰一人、とり残さない社会へ、体系的に心理学を活かす学科が **爆誕** します

入学定員

40名

高崎健康福祉大学

人間発達学部 **心理学科**

(仮称)

設置

理念

自他を支え、次世代を支えていくための
人間理解やスキル獲得へ

ストレス社会といわれる現代社会において、
Well-being社会を実現するためには、心理支援や
セルフケアの知識・スキルを持った人材が求めら
れています。

次のような人を求めて、多面的・総合的に評価す
る入学者選抜を行います。

- 心理学の専門的知識を活かし「人類の健康と福祉に貢献する」ことに強い関心を持っている人
- 心理学の専門知識を学修するために必要な基礎学力を備えている人
- 心理学の専門的知識を活かし「人類の健康と福祉に貢献する」ことを実現するための力を、生涯にわたって主体的に研鑽したいという意欲のある人
- 修得した基礎的な知識・技能を活用しながら他者と協働して学ぶ態度を身につけている人

育成する

人材

自利利他を実行できる対人関係スキルと、
深い自己理解を成す人材を育成

- 心理学の観点に基づき対人支援を展開できる心理専門職（公認心理師等）を目指す人
- 心理学の観点に基づき、自己理解や他者理解ができ、効果的な対人関係スキルを有する人
- 心理学の専門的知識を活かして、あらゆる他者のニーズに沿ったコミュニケーションやサービスを提供できる人

取得を目指すことができる **資格**

公認心理師受験資格（大学）*公認心理師試験の受験には、大学院への進学等が必要です。

認定心理士 認定心理士（心理調査） 社会調査士 児童指導員任用資格 社会福祉主事任用資格

公認心理師以外の上記資格は、必要単位を取得し、卒業時に申請をすることで取得可能です。

* 想定される併願先

- 東京福祉大学 心理学部 ● 群馬医療福祉大学 社会福祉学部
- 共愛学園前橋国際大学 国際社会学部 ● 埼玉工業大学 人間社会学部

学費（予定）

初年度納入金 1,419,730 円
次年度以降 1,180,000 円

人間発達学部心理学科（仮称）

学びの特徴

予測困難で複雑な現代を生き抜くための科学的に物事を捉える思考力と、実践的な学び。

自分を活かし他者を生かすための、実践的な知識とスキルの獲得。

チャートで見る 4年間の学び

Point!

一般就職希望でも大学院進学でも、心理学に関する専門的な講義を受講することができ、自分の「生きる」に合わせたキャリアデザインが可能です。

1年次	2年次	3年次	4年次	卒業研究
心理学入門 心理学基礎演習Ⅰ・Ⅱ	知覚・認知心理学 発達心理学 社会・集団・家族心理学 対人コミュニケーションの心理学	心理的アセスメントⅠ		
心理学概論 心理学統計法Ⅰ	心理学研究法Ⅰ 心理学実験Ⅰ			
健大で学ぶWell-being 基礎教養ゼミ	心理学基礎演習Ⅲ	暮らしに活かすカウンセリング 子ども理解の心理学 消費者理解の心理学 コミュニケーション心理学演習 心理調査法	多様性理解の心理学 情報社会の心理学	
	○ 一般就職 を考える場合	公認心理師の職責 健康・医療心理学 学校・教育心理学 司法・犯罪心理学 心理演習	心理実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 多職種連携における心理専門職 臨床地域援助論	
	◇ 大学院進学 を考える場合			

Point! 一般就職

メンタルヘルスの基礎的な知識をベースに、確かなコミュニケーションスキルと科学的な論理的思考を身につけ、認定心理士*、社会調査士等の資格取得を目指します。

大学卒業後に想定される 就職先

公務員（児童相談所、家庭裁判所等）福祉施設職員
一般企業（労働管理メンタルヘルスマネジメント）出版
IT企業 データアナリスト 銀行 等

* 心理専門職の基礎知識や、統計学、心理学研究法などの論理的・科学的実践スキルを生かした就職活動に役立ちます。

Point! 大学院進学

公認心理師資格取得に必要とされる実践的なスキルと知識、心理職としてのプロフェッショナルリズムを習得し、公認心理師受験の学部要件*を満たすことを目指します。

大学院修了後に想定される 就職先

医療機関（心理士、心理療法士等）
教育機関（スクールカウンセラー等）
公務員（心理判定員、鑑別技官等） 等

* 公認心理師養成大学院への進学、又は認定施設で2年間の実務経験を積むことにより公認心理師国家試験を受験できます。

高崎健康福祉大学

- 人間発達学部 / 子ども教育学科、心理学科（仮称）※2026年4月開設予定
- 健康福祉学部 / 社会福祉学科、医療情報学科、健康栄養学科
- 保健医療学部 / 看護学科、理学療法学科
- 薬学部 / 薬学科
- 農学部 / 生物生産学科

お問い合わせ
〒370-0033 群馬県高崎市中大類町37-1 心理学科設置準備室
Tel. 027-52-1290 Fax. 027-353-2055
<https://www.takasaki-u.ac.jp/>



【資料16】 学生確保に関するアンケート調査 調査票（WEB）

進路に関するアンケート

これは、人間発達学部心理学科（仮称）の設置申請のために必要なアンケートです。
あなたの高校卒業後の進路についてお尋ねする簡単な質問ですのでご回答ください。
ご協力をお願いいたします。

心理学科の詳しい内容は、[こちら](#)をどうぞ。（別にウインドウが開きます）

本アンケートでは、メールアドレスをはじめ、個人情報は収集されません。
安心してご回答ください。

Google にログインすると作業内容を保存できます。 [詳細](#)

次へ

フォームをクリア

無題のセクション

進路に関するアンケートに協力する *

- 協力する
- 協力しない

戻る

次へ

フォームをクリア

あなたが現在お住いの都道府県について、当てはまるもの一つを選んでください。 *

- 群馬県
- 栃木県
- 長野県
- 新潟県
- 埼玉県
- 東京都
- その他: _____

あなたの性別について、当てはまるものを一つ選んでください。 *

- 男性
- 女性
- その他
- 回答しない

あなたの現在の学年について、当てはまるものを一つ選んでください。 *

- 高校1年生
- 高校2年生
- 高校3年生
- その他: _____

戻る

次へ

フォームをクリア

ここから、あなたの高校卒業後のことについてお訊ねします。

質問1. 卒業後の進路をどのように考えていますか。(複数選択可) *

- ① 大学
- ② 短期大学
- ③ 専門職大学
- ④ 専門職短期大学
- ⑤ 専門学校
- ⑥ 就職
- ⑦ その他

戻る

次へ

フォームをクリア

質問2. 質問1. で①～④を選択した方に質問です。 *

志望する大学などの設置者の希望を選択してください。(複数選択可)

- ① 国立
- ② 公立
- ③ 私立

戻る

次へ

フォームをクリア

質問3. 高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から *
選択してください。(複数選択可)

- 心理学系
- 教育学系 (小学校・幼稚園教員養成など)
- 社会福祉学系
- 看護学系
- 理学療法学系
- 薬学系
- 家政学系 (食品栄養学を含む)
- 農学系
- 文学系
- 法学系
- 経済・経営学系
- 理学系
- 工学系
- 情報学系
- その他: _____

戻る

次へ

フォームをクリア

質問4. 「高崎健康福祉大学 人間発達学部 心理学科 (仮称)」が開設された場合、受験を希望しますか。次より一つ選択してください。 *

- ① 第一志望として受験する
- ② 第二志望として受験する
- ③ 第三志望以降として受験する
- ④ 受験しない

戻る

次へ

フォームをクリア

質問5. 質問4. で①～③を選択した方に質問です。

*

「高崎健康福祉大学 人間発達学部 心理学科（仮称）」を受験して合格した場合、入学を希望しますか。次より一つ選択してください。

- ① 入学する
- ② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
- ③ 入学しない

戻る

次へ

フォームをクリア

ご協力ありがとうございました。

質問は以上です。

どのように回答したかについて確認したい場合は、「戻る」を押して確認してください。

このままアンケートを終了したい場合は「送信」を押してください。

戻る

送信

フォームをクリア

春のオープンキャンパス 心理学科（新設予定）アンケート

いずれかの番号を○で囲んでお答えください。

学年 1. 新3年生 2. 新2年生 3. 既卒者

これまでに高崎健康福祉大学心理学科へのアンケートに答えたことがありますか？

1. ある 2. ない

1を選んだ方はこれで終了です。ありがとうございました。またお会いしましょう。

高崎健康福祉大学に心理学科ができた場合の受験の意向をお聞かせください。

1. 第一志望で受験し合格すれば入学したい
2. 第二志望で受験したい
3. まだ不明

オープンキャンパスの説明を聞いて心理学科への興味はどのように変わりましたか？

強く興味を持った ← 5 4 3 2 1 → 興味なくなった

以上でアンケートは終了です、ご協力ありがとうございました。また元気な姿でお目にかかれるのを楽しみにしています。

高崎健康福祉大学
「人間発達学部 心理学科」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【企業・施設・団体対象調査】

令和7年1月
株式会社 進研アド

1. 調査目的

2026年4月開設予定の高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」(仮称)設置構想に関して、企業・施設・団体からの採用ニーズを把握する。

2. 調査概要

		企業・施設・団体対象調査
調査対象		企業・施設・団体の採用担当者
調査エリア		福島県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、長野県
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	430企業・施設・団体
	回収数(回収率)	179企業・施設・団体(41.6%)
調査時期		2024年11月8日(金)～2024年12月2日(月)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

企業・施設・団体対象調査
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人事採用への関与度 ・ 本社(本部)所在地 ・ 業種 ・ 正規社員・職員の従業員数 ・ 正規社員・職員の平均採用人数 ・ 本年度の採用予定数 ・ 採用したい学問分野 ・ 高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」の特色に対する魅力度 ・ 高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」の社会的必要性 ・ 高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」卒業生に対する採用意向 ・ 高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」卒業生に対する毎年の採用想定人数

採用意向調査 調査結果

※報告書内の表中の%の母数は、
特に断りがない場合、回答企業・施設・団体全体
(179企業・施設・団体)

回答企業・施設・団体(回答者)の属性

※本調査は、高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」に対する人材需要を確認するための調査として設計。高崎健康福祉大学の卒業生就職先として想定される企業・施設・団体の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、179企業・施設・団体から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は23.5%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が62.0%と、採用や選考に関わっている人事担当者から意見を聴取できていると考えられる。
- 回答企業・施設・団体の本社(本部)所在地は、高崎健康福祉大学の本部所在地である「群馬県」が57.0%と最も多い。次いで「埼玉県」が12.8%、「東京都」が8.9%と続く。
- 回答企業・施設・団体の業種としては「医療・福祉」が45.8%で最も多い。次いで「卸売・小売業」が15.6%、「製造業」が9.5%と続く。
- 回答企業・施設・団体の正規社員・職員の従業員数は、「100名～500名未満」が34.1%と最も多い。次いで「500名～1,000名未満」が16.8%、「1,000名～5,000名未満」が16.2%と続く。100名以上の比較的規模が大きい企業・施設・団体が7割以上を占める。

回答企業・施設・団体の採用状況(過去3か年平均)／ 本年度の採用予定数／採用したい学問分野

- 回答企業・施設・団体の平均的な正規社員・職員の採用人数は、「1名～5名未満」が22.3%と最も多く、次いで「10名～20名未満」が19.0%、「5名～10名未満」が14.0%と続く。毎年正規社員を採用している企業・施設・団体がほとんどである。
- 回答企業・施設・団体の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が56.4%と最も多く、次いで「増やす」が30.7%である。回答企業・施設・団体の多くで昨年以上の採用が予定されている模様である。
- 回答企業・施設・団体の採用したい学問分野を複数回答で聞いたところ、「社会福祉学」が35.8%で最も高い。次いで「学んだ学問分野にはこだわらない」が32.4%と続く。「人間発達学部 心理学科」の学びと関連する「心理学」は19.6%である。

回答企業・施設・団体(回答者)の属性、 採用状況等

■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。
(あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数 (企業・施設・団体)	標本数	かなりわつついてる	ある程度の権利がある	かなりの権利がある	意見を取り集める立場にある	採用時には直接情報や	無回答
全体	179	23.5 42	62.0 111	11.2 20	3.4 6		

■本社(本部)所在地

Q2. 貴社・貴施設・貴団体の本部所在地について、都道府県名をお教えてください。

上段: % 下段: 件数 (企業・施設・団体)	標本数	福島県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	長野県	無回答
全体	179	1.1 2	5.6 10	57.0 102	12.8 23	0.6 1	8.9 16	1.7 3	5.0 9	6.7 12	0.6 1

■業種

Q3. 貴社・貴施設・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数 (企業・施設・団体)	標本数	農業・林・漁・	建設業	製造業	電気・ガス・水道・熱供給業	情報通信業	運輸業	卸売・小売業	金融・保険業
全体	179	1.1 2	2.2 4	9.5 17	0.0 0	6.1 11	0.0 0	15.6 28	2.2 4

上段: % 下段: 件数 (企業・施設・団体)	標本数	不動産業	宿泊業・飲食店	医療・福祉	複合サービス業	サービス業	公務	その他	無回答
全体	179	0.6 1	0.6 1	45.8 82	1.1 2	4.5 8	5.6 10	4.5 8	0.6 1

回答企業・施設・団体(回答者)の属性、 採用状況等

■正規社員・職員の従業員数

Q4. 貴社・貴施設・貴団体の従業員数(正規社員・職員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

上段:% 下段:件数 (企業・施設・団体)	標本数	5	15	51	15	51	5	無回答
		0名未満	00名未満	00名未満	00名未満	00名未満	00名以上	
全体	179	11.7 21	15.6 28	34.1 61	16.8 30	16.2 29	5.0 9	0.6 1

■正規社員・職員の平均採用人数

Q5. 貴社・貴施設・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員・職員の採用数について、お教えください。
(あてはまる番号1つに○)

上段:% 下段:件数 (企業・施設・団体)	標本数	0	51	15	21	32	53	15	1	無回答
		名	名未満	名未満	名未満	名未満	名未満	名未満	名以上	
全体	179	0.6 1	22.3 40	14.0 25	19.0 34	8.4 15	10.6 19	10.6 19	12.8 23	1.7 3

■本年度の採用予定数

Q6. 貴社・貴施設・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

上段:% 下段:件数 (企業・施設・団体)	標本数	増	昨	減	未	無
		やす	年度並み	らす	定	回答
全体	179	30.7 55	56.4 101	5.0 9	7.3 13	0.6 1

■採用したい学問分野

Q7. 貴社・貴施設・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。
(あてはまる番号すべてに○)

	標本数	心理学	幼稚教育学（小学校・幼稚園教員養成など）	社会福祉学	看護学	理学療法学	薬学	家政学（食品栄養学を含む）	農学	文学
上段：％ 下段：件数 (企業・施設・団体)										
全体	179	19.6 35	14.0 25	35.8 64	27.4 49	20.7 37	27.4 49	17.9 32	10.6 19	5.0 9

	標本数	法学	経済・経営学	理学	工学	情報学	その他	学んだ学問分野には こだわらない	無回答
上段：％ 下段：件数 (企業・施設・団体)									
全体	179	8.4 15	21.2 38	8.4 15	7.3 13	19.0 34	3.9 7	32.4 58	0.0 0

高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」の特色に対する 魅力度

「人間発達学部 心理学科」の特色に対する魅力度(※)は、3つの項目すべてで8割を超える。

- 最も魅力度が高いのは「A. 実践的な学びを通じて、心理学の観点に基づいた対人支援を展開できる心理専門職(公認心理師等の心理カウンセラー)を育成する。」で87.2%である。
- 次に魅力度が高いのは「C. 学ぶ人の興味に合わせた心理学に関する専門講義を受講することができ、心理学の基礎知識や、統計学、心理学研究法などの論理的・科学的な実践スキルが身につく。」で86.6%、「B. メンタルヘルスの基礎知識を活かしたコミュニケーションスキルと科学的思考を身につけて、認定心理士、社会調査士などの資格取得ができる。」で84.4%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業・施設・団体の合計値

高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」 の特色に対する魅力度

■高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」の特色に対する魅力度

- Q8. 高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。
貴社・貴施設・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

特色A. 実践的な学びを通じて、心理学の観点に基づいた対人支援を展開できる心理専門職(公認心理師等の心理カウンセラー)を育成する。

特色B. メンタルヘルスの基礎知識を活かしたコミュニケーションスキルと科学的思考を身につけて、認定心理士、社会調査士などの資格取得ができる。

特色C. 学ぶ人の興味に合わせた心理学に関する専門講義を受講することができ、心理学の基礎知識や、統計学、心理学研究法などの論理的・科学的な実践スキルが身につく。

上段: % 下段: 件数 (企業・施設・団体)	標 本 数	魅と も を 感 じ る	魅あ る 程 度 を 感 じ る	魅あ ま り を 感 じ な い	魅ま つ た く を 感 じ な い	魅 力 度 (※)	無 回 答
特色A	179	22.9 41	64.2 115	11.2 20	1.1 2	87.2 156	0.6 1
特色B	179	25.7 46	58.7 105	14.0 25	1.1 2	84.4 151	0.6 1
特色C	179	22.3 40	64.2 115	12.8 23	0.0 0	86.6 155	0.6 1

※魅力度=「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業・施設・団体の合計値

※魅力度は、件数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」の社会的必要性

- 「人間発達学部 心理学科」について「必要だと思う」と回答した企業・施設・団体は、96.1% (172企業・施設・団体)であり、多くの企業・施設・団体がこれからの社会にとって必要な学部・学科と捉えていることがうかがえる。

高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」卒業生の 採用意向/毎年の採用想定人数

- 「人間発達学部 心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業・施設・団体は77.1% (138企業・施設・団体)であり、予定している入学定員40名を上回る数の採用意向がみられた。
- 「人間発達学部 心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業・施設・団体へ、「人間発達学部 心理学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**250名**で、予定している入学定員数を大きく上回る採用意向がみられた。

このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」 の社会的必要性/採用意向/採用想定人数

■高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴施設・貴団体(ご回答者)は、高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」(仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数 (企業・施設・団体)	標本数	必要だと思 う	必要だと思 わない	無回答
全体	179	96.1 172	1.7 3	2.2 4

■高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴施設・貴団体(ご回答者)では、高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思えますか。(あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数 (企業・施設・団体)	標本数	採用したいと思 う	採用したいと思 わない	無回答
全体	179	77.1 138	19.0 34	3.9 7



「採用したいと思う」と答えた138企業・施設・団体のみ抽出

■高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」卒業生に対する毎年の採用想定人数

Q11. Q10で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
採用を考える場合、高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、毎年何名程度の採用を想定されますか。(あてはまる番号1つに○)

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 5 9名	10名以上	⇒	(※よび数) 示した企業・施設・計 団体の採用想定人数・計 毎年の採用想定人数を
		%	件数	件数	件数	件数	件数		
全体	%	63.0%	13.0%	10.1%	0.0%	3.6%	4.3%	⇒	130 250
	企業・施設・団体数	87	18	14	0	5	6		
	名	87	36	42	0	25	60		

※%の母数は、「人間発達学部 心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業・施設・団体(138企業・施設・団体)

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名~9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

卷末資料 調查票



高崎健康福祉大学「人間発達学部 心理学科」(仮称)に関するアンケート

高崎健康福祉大学では2026年(令和8年)4月より、「人間発達学部 心理学科」(仮称)を新設することを構想しています。
このアンケートは人事採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大学や学部・学科にするための参考資料とさせていただきます。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※このアンケートや同封した資料に記載されている「人間発達学部 心理学科」(仮称、設置構想中)に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴社・貴施設・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
3. 採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集・提供する立場にある

Q2. 貴社・貴施設・貴団体の本部所在地について、都道府県名をお教えてください。

本部所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q3. 貴社・貴施設・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|------------------|-------------|--------------|
| 1. 農・林・漁・鉱業 | 6. 運輸業 | 11. 医療・福祉 |
| 2. 建設業 | 7. 卸売・小売業 | 12. 複合サービス事業 |
| 3. 製造業 | 8. 金融・保険業 | 13. サービス業 |
| 4. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 9. 不動産業 | 14. 公務 |
| 5. 情報通信業 | 10. 飲食店・宿泊業 | 15. その他 |

Q4. 貴社・貴施設・貴団体の従業員数(正規社員・職員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|---------------|------------------|--------------------|
| 1. 50名未満 | 3. 100名～500名未満 | 5. 1,000名～5,000名未満 |
| 2. 50名～100名未満 | 4. 500名～1,000名未満 | 6. 5,000名以上 |

Q5. 貴社・貴施設・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員・職員の採用数について、お教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|-------------|--------------|---------------|
| 1. 0名 | 4. 10名～20名未満 | 7. 50名～100名未満 |
| 2. 1名～5名未満 | 5. 20名～30名未満 | 8. 100名以上 |
| 3. 5名～10名未満 | 6. 30名～50名未満 | |

Q6. 貴社・貴施設・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|----------|--------|
| 1. 増やす | 3. 減らす |
| 2. 昨年度並み | 4. 未定 |

裏面へ続く→

学校法人 高崎健康福祉大学

理事長 須藤 賢一 様

群馬県知事 山本 一大



人間発達学部心理学科の新設に関する意見書

貴学におかれましては、地域の知の拠点及び地域の教育を担う中核として活力ある地域社会の創造に寄与されるとともに、豊かな人間性と高度な専門知識を兼ね備えた優れた人材を育成し、教育、医療、福祉等幅広い分野に輩出されていることに対し、心より敬意と感謝を表します。

さて、本県では「新・群馬県総合計画（ビジョン）」（2021 年～2040 年）において、2040 年に目指す姿として「年齢や性別、国籍、障害の有無等にかかわらず、すべての県民が、誰一人取り残されることなく、自ら思い描く人生を生き、幸福を実感できる自立分散型の社会」を掲げ、「一人ひとりの幸福」、「社会全体の幸福」、「将来世代の幸福」の 3 つの幸福が調和した社会の実現に向けて取り組んでいます。

今日、こころの健康は県民の生活に関わる問題となっており、本県が目指す社会の実現に向けても非常に重要な要素と考えています。そこで、本県では、「群馬県健康増進計画（元気県ぐんま 21（第 3 次））」（2024 年度～2035 年度、健康分野における県の最上位計画）において、「こころの健康の維持向上」を取組項目として位置づけ、職域におけるメンタルヘルス対策のほか、地域住民を対象とした普及啓発、スティグマの減少、総合的な相談支援体制の整備など「こころの健康の維持・向上につながる社会環境整備」に取り組んでいます。さらに、県民の尊い命を守るため「第 4 次群馬県自殺総合対策行動計画－自殺対策アクションプラン－」（2024 年度～2028 年度）を策定し、保健福祉のみならず医療、労働、教育、その他の関連施策との連携を強化し、総合的な自殺対策を推進しています。以上のように、こころの健康の維持向上及び自殺対策においては、個人、家庭、職場、地域社会における理解、相談支援体制の構築及びそれらを支える人材の育成が重要と考えています。

ついては、こころの健康を支える高度な人材を育成・研究するため、貴学において人間発達学部心理学科を早期に設置し、これまで以上に地域社会に貢献いただくことを期待しています。

【資料20】 意見書 高崎市長

学校法人高崎健康福祉大学

理事長 須藤 賢一 様

高崎健康福祉大学人間発達学部心理学科設置に関する意見書

高崎市は、高崎市第6次総合計画において、「いつまでも安心して暮らせるまち高崎」の実現を掲げ、誰もが住み慣れた地域で安心して生き生きと楽しく暮らせる地域社会づくりを推進している。

一方で、今日、心の健康の問題は、日本国民の生活に関わる重要な問題となっており、本市においても女性や小中高生の自殺者が増加するなど、深刻な状況が続いている。

本市では、自殺対策基本法に基づき、第2次命を守る高崎市行動計画を策定し、保健、医療、福祉、教育、労働その他の関連施策と連携・協力を強化し、より効果的で総合的な自殺対策を推進している。

このような現状において、貴大学が「人間発達学部心理学科」を新設し、過労、多重債務、子育ての不安や介護疲れ、いじめや社会的孤立など、社会的な要因によって追い込まれている様々な世代の人々を心理的にサポートできる人材を養成することは、本市の取り組みに大きく寄与するものと期待され、本市としても積極的な人材の活用を図っていききたいと考えている。

また、貴大学に「人間発達学部心理学科」が新設されることにより、これまで以上に優秀な人材が全国各地から本市に集まることで、心理学を活用した多分野での福祉の向上が図られるとともに、本市の都市としての活力や賑わいがより一層増進するものと確信している。

なぜなら、貴大学は、現在においても入学希望者が大変多い人気のある大学であり、学校全体の今年度入学希望者は募集定員の3.6倍、さらには昨年度卒業者の就職内定率は99.5%となっており、この「人間発達学部心理学科」が新設された暁には、全国各地からさらに人材が集まるのが容易に想像できるもので、本市としても新学科の設置は適切なものと考えている。

令和6年10月29日

高崎市長 富岡 賢治



【資料21】 意見書 高崎商工会議所会頭

学校法人 高崎健康福祉大学
理事長 須藤賢一様

高崎健康福祉大学人間発達学部心理学科
設置に関する意見書

高崎商工会議所は、会員である事業所が、積極的に活用し、事業拡大を図ることができるようにさまざまなサービスを提供している。現在11の部会が設置されており、関係業種に関する意見交換を行うほか、業種が抱える問題等についての研修会等を開催している。

近年、仕事や職業生活にストレスを感じる労働者の割合が高くなっていることが社会問題となっている。労働者のメンタルヘルス不調を防ぐために、各職場でメンタルヘルス対策を推進することが推奨されており、その際、各事業所は、職員の仕事と生活の調和を図り、働きやすい環境を整備することによって、能力を十分に発揮できるようにすることが重要であると考えます。

このような中、貴大学が人間発達学部心理学科を新設し、心理学の観点から自己理解や他者理解ができ、かつ臨床心理学の知見による対人支援や、心理支援のための効果的なコミュニケーション・スキルを修得した職業人を養成することは、上述したような働きやすい環境づくりを目指している本会議所の会員である各事業所において、求められる人材であると考えられる。そのような人材を積極的に採用することで、心理的安全のある職場づくりの実現に大きく寄与することが期待される。

令和 6年10月 1 日

高崎商工会議所会頭

須藤 賢一



【別紙1】新設組織が置かれる都道府県への入学状況
新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙 1

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位5都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	群馬県	2,978人	43.4%
2	埼玉県	476人	6.9%
3	栃木県	430人	6.3%
4	長野県	299人	4.4%
5	茨城県	196人	2.9%
	全 体	6,863人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合や収容定員の増加に係る学則変更認可申請の場合に作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	群馬県	94.52%	89.66%	105.69%
2				

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	人文科学系	98.93%	96.28%	95.96%
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数	5人	5人	5人	7人	10人	6人	
	延べ人数	志願者数	8人	8人	6人	8人	11人	8人
		受験者数	8人	8人	6人	8人	10人	8人
		合格者数	6人	6人	5人	7人	10人	7人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	実人数	志願者数	8人	8人	6人	8人	11人	8人
		受験者数	8人	8人	6人	8人	10人	8人
		合格者数	6人	6人	5人	7人	10人	7人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	入学者数	6人	6人	4人	6人	7人	6人	
	学校推薦型選抜	募集人数	30人	30人	30人	35人	35人	32人
延べ人数		志願者数	60人	69人	79人	54人	52人	63人
		受験者数	60人	69人	79人	53人	52人	63人
		合格者数	60人	67人	78人	53人	52人	62人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	60人	69人	79人	54人	52人	63人
		受験者数	60人	69人	79人	53人	52人	63人
		合格者数	60人	67人	78人	53人	52人	62人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
入学者数		60人	67人	78人	53人	52人	62人	
一般選抜		募集人数	23人	23人	23人	28人	25人	24人
	延べ人数	志願者数	136人	119人	114人	90人	71人	106人
		受験者数	133人	115人	112人	86人	71人	103人
		合格者数	26人	21人	16人	41人	36人	28人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	5人	3人	7人	6人	4人
	実人数	志願者数	88人	68人	85人	63人	50人	71人
		受験者数	86人	65人	83人	60人	50人	69人
		合格者数	26人	21人	16人	41人	36人	28人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	5人	3人	7人	6人	4人
	入学者数	13人	3人	8人	19人	16人	12人	
	共通テスト利用入試	募集人数	12人	12人	12人	10人	10人	11人
延べ人数		志願者数	125人	64人	71人	56人	50人	73人
		受験者数	125人	64人	71人	56人	50人	73人
		合格者数	15人	15人	16人	49人	42人	27人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	1人	3人	1人	0人	1人
実人数		志願者数	125人	64人	71人	56人	50人	73人
		受験者数	125人	64人	71人	56人	50人	73人
		合格者数	15人	15人	16人	49人	42人	27人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	1人	3人	1人	0人	1人
入学者数		0人	1人	2人	6人	3人	2人	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	合計	募集人数	70人	70人	70人	80人	80人	74人
延べ人数		志願者数	329人	260人	270人	208人	184人	250人
		受験者数	326人	256人	268人	203人	183人	247人
		合格者数	107人	109人	115人	150人	140人	124人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	6人	6人	9人	6人	6人
実人数		志願者数	281人	209人	241人	181人	163人	215人
		受験者数	279人	206人	239人	177人	162人	213人
		合格者数	107人	109人	115人	150人	140人	124人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	6人	6人	9人	6人	6人
入学者数		79人	77人	92人	84人	78人	82人	

2. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	70人	70人	70人	80人	80人	74人
入学定員充足率	1.13	1.10	1.31	1.05	0.98	1.11
歩留率	0.74	0.71	0.80	0.56	0.56	0.67

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数	5人	5人	5人	5人	8人	6人	
	延べ人数	志願者数	18人	8人	16人	11人	13人	13人
		受験者数	16人	8人	16人	11人	12人	13人
		合格者数	8人	5人	8人	7人	9人	7人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	2人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	18人	8人	16人	11人	13人	13人
		受験者数	16人	8人	16人	11人	12人	13人
		合格者数	8人	5人	8人	7人	9人	7人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	2人	0人	0人	0人
	入学者数	8人	5人	6人	6人	8人	7人	
	学校推薦型選抜	募集人数	25人	25人	25人	32人	32人	28人
		延べ人数	志願者数	67人	75人	71人	58人	56人
受験者数			67人	75人	71人	58人	56人	65人
合格者数			67人	70人	67人	55人	55人	63人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	67人	75人	71人	58人	56人	65人
		受験者数	67人	75人	71人	58人	56人	65人
		合格者数	67人	70人	67人	55人	55人	63人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
入学者数		67人	70人	67人	55人	55人	63人	
一般選抜		募集人数	20人	20人	20人	28人	25人	23人
		延べ人数	志願者数	147人	117人	122人	101人	84人
	受験者数		145人	113人	116人	96人	84人	111人
	合格者数		20人	21人	21人	34人	28人	25人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		2人	5人	3人	5人	5人	4人
	実人数	志願者数	114人	84人	74人	71人	55人	80人
		受験者数	112人	82人	70人	69人	55人	78人
		合格者数	20人	21人	21人	34人	28人	25人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	5人	3人	5人	5人	4人
	入学者数	6人	3人	11人	16人	11人	9人	
	共通テスト利用入試	募集人数	10人	10人	10人	10人	10人	10人
		延べ人数	志願者数	135人	74人	70人	61人	69人
受験者数			135人	74人	70人	61人	69人	82人
合格者数			12人	12人	12人	39人	55人	26人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			1人	0人	1人	2人	1人	1人
実人数		志願者数	135人	74人	70人	61人	69人	82人
		受験者数	135人	74人	70人	61人	69人	82人
		合格者数	12人	12人	12人	39人	55人	26人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	1人	2人	1人	1人
入学者数		2人	1人	2人	3人	6人	3人	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		延べ人数	志願者数	1人	1人	1人	2人	1人
	受験者数		1人	1人	1人	2人	1人	1人
	合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	1人	1人	1人	2人	1人	1人
		受験者数	1人	1人	1人	2人	1人	1人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	合計	募集人数	60人	60人	60人	75人	75人	66人
		延べ人数	志願者数	368人	275人	280人	233人	223人
受験者数			364人	271人	274人	228人	222人	272人
合格者数			107人	108人	108人	135人	147人	121人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			3人	5人	6人	7人	6人	5人
実人数		志願者数	335人	242人	232人	203人	194人	241人
		受験者数	331人	240人	228人	201人	193人	239人
		合格者数	107人	108人	108人	135人	147人	121人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	5人	6人	7人	6人	5人
入学者数		83人	79人	86人	80人	80人	82人	

2. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	60人	60人	60人	75人	75人	66人
入学定員充足率	1.38	1.32	1.43	1.07	1.07	1.25
歩留率	0.78	0.73	0.80	0.59	0.54	0.69

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数	3人	3人	5人	5人	6人	4人	
	延べ人数	志願者数	18人	26人	36人	27人	46人	31人
		受験者数	18人	26人	36人	27人	44人	30人
		合格者数	3人	5人	11人	8人	16人	9人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	2人	0人
	実人数	志願者数	18人	26人	36人	27人	46人	31人
		受験者数	18人	26人	36人	27人	44人	30人
		合格者数	3人	5人	11人	8人	16人	9人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	2人	0人
	入学者数	3人	5人	11人	6人	12人	7人	
	学校推薦型選抜	募集人数	37人	37人	37人	37人	36人	37人
延べ人数		志願者数	61人	61人	65人	67人	63人	63人
		受験者数	61人	61人	65人	67人	63人	63人
		合格者数	48人	51人	48人	50人	57人	51人
		うち追加合格者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
実人数		志願者数	61人	61人	65人	67人	63人	63人
		受験者数	61人	61人	65人	67人	63人	63人
		合格者数	48人	51人	48人	50人	57人	51人
		うち追加合格者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
入学者数		48人	51人	48人	49人	57人	51人	
一般選抜		募集人数	32人	32人	30人	30人	30人	31人
	延べ人数	志願者数	215人	194人	178人	144人	89人	164人
		受験者数	206人	178人	175人	130人	83人	154人
		合格者数	62人	63人	64人	37人	25人	50人
		うち追加合格者数	5人	8人	0人	2人	1人	3人
		辞退者数	8人	7人	6人	7人	3人	6人
	実人数	志願者数	190人	174人	154人	122人	84人	145人
		受験者数	181人	158人	154人	109人	78人	136人
		合格者数	62人	63人	64人	37人	25人	50人
		うち追加合格者数	5人	8人	0人	2人	1人	3人
		辞退者数	8人	7人	6人	7人	3人	6人
	入学者数	26人	26人	36人	20人	13人	24人	
	共通テスト利用入試	募集人数	7人	7人	7人	7人	7人	7人
延べ人数		志願者数	130人	105人	89人	83人	76人	97人
		受験者数	130人	105人	89人	83人	76人	97人
		合格者数	17人	22人	27人	26人	28人	24人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	1人	1人	0人
		辞退者数	2人	3人	2人	0人	0人	1人
実人数		志願者数	130人	105人	89人	83人	76人	97人
		受験者数	130人	105人	89人	83人	76人	97人
		合格者数	17人	22人	27人	26人	28人	24人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	1人	1人	0人
		辞退者数	2人	3人	2人	0人	0人	1人
入学者数		1人	1人	3人	4人	4人	3人	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	1人	0人	1人	1人	0人	1人
		受験者数	1人	0人	1人	1人	0人	1人
		合格者数	0人	0人	1人	1人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	1人	0人	1人	1人	0人	1人
		受験者数	1人	0人	1人	1人	0人	1人
		合格者数	0人	0人	1人	1人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	1人	1人	0人	0人	
	合計	募集人数	79人	79人	79人	79人	79人	79人
延べ人数		志願者数	425人	386人	369人	322人	274人	355人
		受験者数	416人	370人	366人	308人	266人	345人
		合格者数	130人	141人	151人	122人	126人	134人
		うち追加合格者数	6人	8人	0人	3人	2人	4人
		辞退者数	10人	10人	8人	8人	5人	8人
実人数		志願者数	400人	366人	345人	300人	269人	336人
		受験者数	391人	350人	345人	287人	261人	327人
		合格者数	130人	141人	151人	122人	126人	134人
		うち追加合格者数	6人	8人	0人	3人	2人	4人
		辞退者数	10人	10人	8人	8人	5人	8人
入学者数		78人	83人	99人	80人	86人	85人	

2. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	80人	80人	80人	80人	80人	80人
入学定員充足率	0.98	1.04	1.24	1.00	1.08	1.07
歩留率	0.60	0.59	0.66	0.66	0.68	0.64

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）
 大学学部学科等名：高崎健康福祉大学薬学部薬学科

別紙2-4

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数	3人	3人	6人	6人	8人	5人	
	延べ人数	志願者数	16人	9人	29人	46人	44人	29人
		受験者数	16人	9人	28人	45人	44人	28人
		合格者数	4人	3人	18人	20人	30人	15人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	2人	2人	1人
	実人数	志願者数	16人	9人	29人	46人	44人	29人
		受験者数	16人	9人	28人	45人	44人	28人
		合格者数	4人	3人	18人	20人	30人	15人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	2人	2人	1人
	入学者数	4人	3人	13人	13人	19人	10人	
	学校推薦型選抜	募集人数	35人	35人	35人	35人	35人	35人
		延べ人数	志願者数	65人	54人	51人	54人	41人
受験者数			65人	54人	51人	53人	41人	53人
合格者数			45人	42人	47人	43人	36人	43人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	65人	54人	51人	54人	41人	53人
		受験者数	65人	54人	51人	53人	41人	53人
		合格者数	45人	42人	47人	43人	36人	43人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
入学者数		45人	42人	47人	43人	36人	43人	
一般選抜		募集人数	45人	45人	42人	42人	40人	43人
		延べ人数	志願者数	290人	294人	226人	220人	188人
	受験者数		271人	262人	215人	206人	170人	225人
	合格者数		91人	106人	93人	94人	85人	94人
	うち追加合格者数		5人	15人	3人	6人	0人	6人
	辞退者数		12人	12人	10人	8人	11人	11人
	実人数	志願者数	290人	294人	226人	220人	188人	244人
		受験者数	271人	262人	215人	206人	170人	225人
		合格者数	91人	106人	93人	94人	85人	94人
		うち追加合格者数	5人	15人	3人	6人	0人	6人
		辞退者数	12人	12人	10人	8人	11人	11人
	入学者数	38人	43人	29人	35人	35人	36人	
	共通テスト利用入試	募集人数	7人	7人	7人	7人	7人	7人
		延べ人数	志願者数	142人	136人	120人	139人	121人
受験者数			142人	136人	120人	139人	121人	132人
合格者数			56人	62人	85人	84人	76人	73人
うち追加合格者数			0人	2人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			1人	2人	6人	6人	2人	3人
実人数		志願者数	142人	136人	120人	139人	121人	132人
		受験者数	142人	136人	120人	139人	121人	132人
		合格者数	56人	62人	85人	84人	76人	73人
		うち追加合格者数	0人	2人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	2人	6人	6人	2人	3人
入学者数		3人	7人	11人	6人	4人	6人	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		延べ人数	志願者数	1人	0人	0人	1人	2人
	受験者数		1人	0人	0人	1人	1人	1人
	合格者数		1人	0人	0人	0人	1人	0人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	1人	0人
	実人数	志願者数	1人	0人	0人	1人	2人	1人
		受験者数	1人	0人	0人	1人	1人	1人
		合格者数	1人	0人	0人	0人	1人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
	入学者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人	
	合計	募集人数	90人	90人	90人	90人	90人	90人
		延べ人数	志願者数	514人	493人	426人	460人	396人
受験者数			495人	461人	414人	444人	377人	438人
合格者数			197人	213人	243人	241人	228人	224人
うち追加合格者数			5人	17人	3人	6人	0人	6人
辞退者数			13人	14人	17人	16人	16人	15人
実人数		志願者数	514人	493人	426人	460人	396人	458人
		受験者数	495人	461人	414人	444人	377人	438人
		合格者数	197人	213人	243人	241人	228人	224人
		うち追加合格者数	5人	17人	3人	6人	0人	6人
		辞退者数	13人	14人	17人	16人	16人	15人
入学者数		91人	95人	100人	97人	94人	95人	

2. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	90人	90人	90人	90人	90人	90人
入学定員充足率	1.01	1.06	1.11	1.08	1.04	1.06
歩留率	0.46	0.45	0.41	0.40	0.41	0.43

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数	3人	3人	8人	8人	10人	6人	
	延べ人数	志願者数	17人	26人	46人	77人	64人	46人
		受験者数	17人	25人	46人	74人	64人	45人
		合格者数	3人	6人	14人	30人	32人	17人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	3人	2人	1人
	実人数	志願者数	17人	26人	46人	77人	64人	46人
		受験者数	17人	25人	46人	74人	64人	45人
		合格者数	3人	6人	14人	30人	32人	17人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	3人	2人	1人
	入学者数	3人	6人	10人	17人	17人	11人	
	学校推薦型選抜	募集人数	40人	40人	40人	40人	40人	40人
		延べ人数	志願者数	61人	81人	77人	85人	51人
受験者数			61人	81人	77人	84人	51人	71人
合格者数			40人	49人	43人	45人	50人	45人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	61人	81人	77人	85人	51人	71人
		受験者数	61人	81人	77人	84人	51人	71人
		合格者数	40人	49人	43人	45人	50人	45人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
入学者数		40人	49人	43人	45人	50人	45人	
一般選抜		募集人数	50人	50人	48人	48人	46人	48人
		延べ人数	志願者数	389人	375人	372人	341人	263人
	受験者数		376人	371人	355人	334人	252人	338人
	合格者数		145人	127人	138人	128人	115人	131人
	うち追加合格者数		8人	4人	4人	8人	5人	6人
	辞退者数		32人	33人	35人	33人	33人	33人
	実人数	志願者数	389人	375人	372人	341人	263人	348人
		受験者数	376人	371人	355人	334人	252人	338人
		合格者数	145人	127人	138人	128人	115人	131人
		うち追加合格者数	8人	4人	4人	8人	5人	6人
		辞退者数	32人	33人	35人	33人	33人	33人
	入学者数	57人	50人	47人	45人	34人	47人	
	共通テスト利用入試	募集人数	7人	7人	4人	4人	4人	5人
		延べ人数	志願者数	182人	145人	160人	151人	131人
受験者数			182人	145人	160人	151人	131人	154人
合格者数			45人	43人	41人	55人	48人	46人
うち追加合格者数			1人	0人	1人	0人	0人	0人
辞退者数			4人	6人	3人	5人	6人	5人
実人数		志願者数	182人	145人	160人	151人	131人	154人
		受験者数	182人	145人	160人	151人	131人	154人
		合格者数	45人	43人	41人	55人	48人	46人
		うち追加合格者数	1人	0人	1人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	6人	3人	5人	6人	5人
入学者数		3人	4人	2人	5人	2人	3人	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		延べ人数	志願者数	0人	1人	0人	1人	3人
	受験者数		0人	1人	0人	1人	3人	1人
	合格者数		0人	0人	0人	0人	1人	0人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	1人	0人
	実人数	志願者数	0人	1人	0人	1人	3人	1人
		受験者数	0人	1人	0人	1人	3人	1人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	合計	募集人数	100人	100人	100人	100人	100人	100人
		延べ人数	志願者数	649人	628人	655人	655人	512人
受験者数			636人	623人	638人	644人	501人	608人
合格者数			233人	225人	236人	258人	246人	240人
うち追加合格者数			9人	4人	5人	8人	5人	6人
辞退者数			36人	39人	39人	41人	42人	39人
実人数		志願者数	649人	628人	655人	655人	512人	620人
		受験者数	636人	623人	638人	644人	501人	608人
		合格者数	233人	225人	236人	258人	246人	240人
		うち追加合格者数	9人	4人	5人	8人	5人	6人
		辞退者数	36人	39人	39人	41人	42人	39人
入学者数		103人	109人	102人	112人	103人	106人	

2. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	100人	100人	100人	100人	100人	100人
入学定員充足率	1.03	1.09	1.02	1.12	1.03	1.06
歩留率	0.44	0.48	0.43	0.43	0.42	0.44

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数	2人	2人	2人	2人	4人	2人	
	延べ人数	志願者数	20人	18人	32人	28人	22人	24人
		受験者数	19人	18人	32人	28人	21人	24人
		合格者数	2人	2人	9人	9人	10人	6人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	20人	18人	32人	28人	22人	24人
		受験者数	19人	18人	32人	28人	21人	24人
		合格者数	2人	2人	9人	9人	10人	6人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0人
	入学者数	2人	2人	7人	7人	7人	5人	
	学校推薦型選抜	募集人数	18人	18人	18人	18人	17人	18人
		延べ人数	志願者数	40人	40人	41人	33人	29人
受験者数			40人	40人	41人	32人	29人	36人
合格者数			21人	21人	20人	22人	19人	21人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	40人	40人	41人	33人	29人	37人
		受験者数	40人	40人	41人	32人	29人	36人
		合格者数	21人	21人	20人	22人	19人	21人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
入学者数		21人	21人	20人	22人	19人	21人	
一般選抜		募集人数	17人	17人	17人	17人	16人	17人
		延べ人数	志願者数	189人	222人	177人	169人	111人
	受験者数		182人	215人	174人	165人	109人	169人
	合格者数		46人	47人	39人	36人	39人	41人
	うち追加合格者数		2人	3人	4人	5人	0人	3人
	辞退者数		7人	4人	3人	8人	8人	6人
	実人数	志願者数	189人	222人	177人	169人	111人	174人
		受験者数	182人	215人	174人	165人	109人	169人
		合格者数	46人	47人	39人	36人	39人	41人
		うち追加合格者数	2人	3人	4人	5人	0人	3人
		辞退者数	7人	4人	3人	8人	8人	6人
	入学者数	21人	25人	21人	17人	21人	21人	
	共通テスト利用入試	募集人数	3人	3人	3人	3人	3人	3人
		延べ人数	志願者数	116人	97人	104人	96人	89人
受験者数			116人	97人	104人	96人	89人	100人
合格者数			12人	14人	11人	17人	27人	16人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			2人	0人	1人	0人	2人	1人
実人数		志願者数	116人	97人	104人	96人	89人	100人
		受験者数	116人	97人	104人	96人	89人	100人
		合格者数	12人	14人	11人	17人	27人	16人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	0人	0人	0人	2人	1人
入学者数		2人	1人	1人	3人	1人	2人	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		延べ人数	志願者数	0人	1人	0人	0人	0人
	受験者数		0人	1人	0人	0人	0人	0人
	合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	合計	募集人数	40人	40人	40人	40人	40人	40人
		延べ人数	志願者数	365人	378人	354人	326人	251人
受験者数			357人	371人	351人	321人	248人	330人
合格者数			81人	84人	79人	84人	95人	85人
うち追加合格者数			2人	3人	4人	5人	0人	3人
辞退者数			9人	4人	5人	8人	10人	7人
実人数		志願者数	365人	378人	354人	326人	251人	335人
		受験者数	357人	371人	351人	321人	248人	330人
		合格者数	81人	84人	79人	84人	95人	85人
		うち追加合格者数	2人	3人	4人	5人	0人	3人
		辞退者数	9人	4人	4人	8人	10人	7人
入学者数		46人	49人	49人	49人	48人	48人	

2. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40人
入学定員充足率	1.15	1.23	1.23	1.23	1.20	1.21
歩留率	0.57	0.58	0.62	0.58	0.51	0.57

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数	3人	3人	5人	5人	5人	4人	
	延べ人数	志願者数	13人	7人	13人	12人	21人	13人
		受験者数	13人	7人	13人	12人	21人	13人
		合格者数	4人	3人	7人	8人	8人	6人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
	実人数	志願者数	13人	7人	13人	12人	21人	13人
		受験者数	13人	7人	13人	12人	21人	13人
		合格者数	4人	3人	7人	8人	8人	6人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
	入学者数	4人	3人	4人	6人	4人	4人	
	学校推薦型選抜	募集人数	40人	40人	40人	40人	40人	40人
		延べ人数	志願者数	66人	69人	78人	80人	64人
受験者数			66人	69人	78人	80人	64人	71人
合格者数			59人	60人	68人	71人	62人	64人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	66人	69人	78人	80人	64人	71人
		受験者数	66人	69人	78人	80人	64人	71人
		合格者数	59人	60人	68人	71人	62人	64人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
入学者数		59人	60人	68人	71人	62人	64人	
一般選抜		募集人数	30人	30人	28人	28人	28人	29人
		延べ人数	志願者数	194人	140人	123人	126人	80人
	受験者数		188人	137人	121人	122人	77人	129人
	合格者数		58人	70人	55人	51人	40人	55人
	うち追加合格者数		4人	7人	0人	0人	2人	3人
	辞退者数		12人	6人	8人	9人	11人	9人
	実人数	志願者数	194人	140人	123人	126人	80人	133人
		受験者数	188人	137人	121人	122人	77人	129人
		合格者数	58人	70人	55人	51人	40人	55人
		うち追加合格者数	4人	7人	0人	0人	2人	3人
		辞退者数	12人	6人	8人	9人	11人	9人
	入学者数	22人	25人	16人	16人	8人	17人	
	共通テスト利用入試	募集人数	7人	7人	7人	7人	7人	7人
		延べ人数	志願者数	137人	94人	109人	97人	92人
受験者数			137人	94人	109人	97人	92人	106人
合格者数			44人	64人	74人	52人	49人	57人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	1人	0人
辞退者数			2人	5人	3人	3人	4人	3人
実人数		志願者数	137人	94人	109人	97人	92人	106人
		受験者数	137人	94人	109人	97人	92人	106人
		合格者数	44人	64人	74人	52人	49人	57人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
		辞退者数	2人	5人	3人	3人	4人	3人
入学者数		4人	3人	9人	6人	3人	5人	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	合計	募集人数	80人	80人	80人	80人	80人	80人
		延べ人数	志願者数	410人	310人	323人	315人	257人
受験者数			404人	307人	321人	311人	254人	319人
合格者数			165人	197人	204人	182人	159人	181人
うち追加合格者数			4人	7人	0人	0人	3人	3人
辞退者数			14人	11人	11人	12人	16人	13人
実人数		志願者数	410人	310人	323人	315人	257人	323人
		受験者数	404人	307人	321人	311人	254人	319人
		合格者数	165人	197人	204人	182人	159人	181人
		うち追加合格者数	4人	7人	0人	0人	3人	3人
		辞退者数	14人	11人	11人	12人	16人	13人
入学者数		89人	91人	97人	99人	77人	91人	

2. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	80人	80人	80人	80人	80人	80人
入学定員充足率	1.11	1.14	1.21	1.24	0.96	1.13
歩留率	0.54	0.46	0.48	0.54	0.48	0.50

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数	10人	10人	20人	13人	13人	13人	
	延べ人数	志願者数	20人	13人	21人	26人	34人	23人
		受験者数	20人	12人	20人	26人	34人	22人
		合格者数	13人	11人	18人	20人	25人	17人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	20人	13人	21人	26人	34人	23人
		受験者数	20人	12人	20人	26人	34人	22人
		合格者数	13人	11人	18人	20人	25人	17人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	13人	11人	13人	14人	16人	13人	
	学校推薦型選抜	募集人数	40人	40人	30人	30人	30人	34人
延べ人数		志願者数	27人	29人	31人	45人	35人	33人
		受験者数	27人	29人	31人	44人	35人	33人
		合格者数	27人	29人	31人	44人	34人	33人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	27人	29人	31人	45人	35人	33人
		受験者数	27人	29人	31人	44人	35人	33人
		合格者数	27人	29人	31人	44人	34人	33人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
入学者数		27人	29人	31人	44人	34人	33人	
一般選抜		募集人数	37人	37人	37人	25人	25人	32人
	延べ人数	志願者数	201人	156人	177人	149人	125人	162人
		受験者数	194人	154人	170人	145人	115人	156人
		合格者数	135人	110人	129人	92人	78人	109人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	16人	23人	12人	6人	12人	14人
	実人数	志願者数	201人	156人	177人	149人	125人	162人
		受験者数	194人	154人	170人	145人	115人	156人
		合格者数	135人	110人	129人	92人	78人	109人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	16人	23人	12人	6人	12人	14人
	入学者数	49人	25人	35人	19人	27人	31人	
	共通テスト利用入試	募集人数	13人	13人	13人	7人	7人	11人
延べ人数		志願者数	136人	121人	147人	146人	130人	136人
		受験者数	136人	121人	147人	146人	130人	136人
		合格者数	75人	102人	115人	105人	108人	101人
		うち追加合格者数	0人	0人	2人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	4人	5人	3人	4人	4人
実人数		志願者数	136人	121人	147人	146人	130人	136人
		受験者数	136人	121人	147人	146人	130人	136人
		合格者数	75人	102人	115人	105人	108人	101人
		うち追加合格者数	0人	0人	2人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	4人	5人	3人	4人	4人
入学者数		7人	4人	6人	10人	11人	8人	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	1人	0人	3人	0人	1人
		受験者数	0人	1人	0人	3人	0人	1人
		合格者数	0人	1人	0人	2人	0人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	1人	0人	3人	0人	1人
		受験者数	0人	1人	0人	3人	0人	1人
		合格者数	0人	1人	0人	2人	0人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	1人	0人	1人	0人	0人	
	合計	募集人数	100人	100人	100人	75人	75人	90人
延べ人数		志願者数	384人	320人	376人	369人	324人	355人
		受験者数	377人	317人	368人	364人	314人	348人
		合格者数	250人	253人	293人	263人	245人	261人
		うち追加合格者数	0人	0人	2人	0人	0人	0人
		辞退者数	20人	27人	17人	9人	16人	18人
実人数		志願者数	384人	320人	376人	369人	324人	355人
		受験者数	377人	317人	368人	364人	314人	348人
		合格者数	250人	253人	293人	263人	245人	261人
		うち追加合格者数	0人	0人	2人	0人	0人	0人
		辞退者数	20人	27人	17人	9人	16人	18人
入学者数		96人	70人	85人	88人	88人	85人	

2. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	100人	100人	100人	75人	75人	90人
入学定員充足率	0.96	0.70	0.85	1.17	1.17	0.97
歩留率	0.38	0.28	0.29	0.33	0.36	0.33

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

別紙3

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：高崎健康福祉大学のオープンキャンパス

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	2551人	2489人	①取組概要 本学科入学希望者を対象としてキャンパスを開放し、既設組織の特色や人材像の紹介、模擬授業、在学生との懇談、施設案内等を実施。 R5年度入試対象：R4 3/12、7/23、7/24、8/20、8/21 R6年度入試対象：R5 3/11、7/22、7/23、8/19、8/20 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 オープンキャンパスの参加者（1学年から3学年あるいは既卒者）の受験率は実施プログラムの効果も相まって、高い水準（約50%前後）となっている。また、入学率（約33～38%）においても入学意欲の訴求に効果があると考えられる。したがって、新設学科において同様の効果が期待できると考える。
うち受験対象者数(b)	1403人	1193人	
うち受験者数(c)	696人	611人	
うち入学者数(d)	476人	448人	
(受験率 c/b)	49.6%	51.2%	
(入学率 d/b)	33.9%	37.6%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：高崎健康福祉大学の大学案内の配布（郵送等）

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
資料請求者等総数(a)	31765人	31446人	①取組概要 各種媒体での広告（記事）接触者からの資料請求（大学案内）、大学HPからの資料請求、および各種ガイダンス（入試説明会など）での大学案内の配布。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 大学案内配布者の受験率はおよそ8%台。入学率は4%台。 各種進学雑誌媒体、WEB媒体からの資料請求者への大学案内の配布については請求者の志願度合いの高低差が大いだが、大学案内が本学に対し更なる接触（進学相談会、オープンキャンパス、受験）機会への入口となっている。
うち受験対象者数(b)	14274人	13566人	
うち受験者数(c)	1207人	1081人	
うち入学者数(d)	626人	597人	
(受験率 c/b)	8.5%	8.0%	
(入学率 d/b)	4.4%	4.4%	

③募集を行った学科等名称及び取組の名称：高崎健康福祉大学の進学相談会（会場ガイダンス）

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	736人	712人	①取組概要 進学相談会（外部業者主催）へ参加し、本学への入学希望者や受験を視野に入れた高校生およびその保護者に向け、大学の説明や各学部・学科、入試、学生生活などを説明している。年間約50件の進学相談会に参加している。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 進学相談会では受験を控えた高校生（1,2学年含む）への大学アピールの場として機能しており、結果として相談者のおよそ20%は入学まで至っている。
うち受験対象者数(b)	514人	460人	
うち受験者数(c)	182人	141人	
うち入学者数(d)	111人	95人	
(受験率 c/b)	35.4%	30.7%	
(入学率 d/b)	21.6%	20.7%	

④募集を行った学科等名称及び取組の名称：高崎健康福祉大学の入試説明会（本学主催）

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	69人	80人	①取組概要 本学主催の「入試説明会」は近隣県各所や一般選抜の会場となる地域にて6～9月に開催している。主に入試に特化した説明会となっており、3年生（浪人生）とその保護者を対象に行っている。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 本学主催の入試説明会のため、参加時点では本学受験（入学）希望者がほとんどである。参加者の入学率は平均して40%前後と高い水準である。
うち受験対象者数(b)	69人	80人	
うち受験者数(c)	39人	44人	
うち入学者数(d)	27人	32人	
(受験率 c/b)	56.5%	55.0%	
(入学率 d/b)	39.1%	40.0%	